令和６年　第６回金沢市教育委員会定例会議

１　日　時：令和６年６月２６日（水）　１３時３０分～１５時００分（予定）

２　場　所：金沢市役所　第二本庁舎　２階　2201 会議室

３　審議等

頁

議案第２３号　新金沢型学校教育モデルについて
（学校指導課）・・・　１

議案第２４号　金沢市図書館の開館時間の変更等について
（図書館総務課）・・・　５

議案第２５号　金沢市学校運営協議会規則の一部改正について
（学校職員課）・・・　７

議案第２６号　金沢市立工業高等学校管理規則の一部改正について
（市立工業高等学校事務局）・・・１２

議案第２７号　金沢子どもを育む行動推進委員会委員の委嘱等について
【非公開案件】（教育総務課）・・・１５

議案第２８号　金沢市社会教育委員の委嘱等について
【非公開案件】（生涯学習課）・・・１７

報告第　６　号　令和６年度金沢市立小中学校児童・生徒数及び教員数について
（学校職員課）・・・２０

報告第　７　号　金沢市立小中学校の勤務時間記録の集計結果（令和５年度分）について
（学校職員課）・・・２２

報告第　８　号　令和６年度金沢市教員採用候補者選考試験の申込状況について
（学校職員課）・・・２５

報告第　９　号　令和６年度かなざわ市民アカデミーについて
（生涯学習課）・・・２７

その他　（１）次回の定例会議の日程について

議案第　２３　号

新金沢型学校教育モデルについて

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　野口　弘

新金沢型学校教育モデルについて

新しい時代が求める学びの在り方を踏まえた新金沢型学校教育モデルについて、次期金沢型学校教育モデル構築会議からの答申を踏まえ、次のとおり策定する。

１　新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方

新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、児童生徒が探究的な学びを通して、「自分」と「みんな」で新しい価値や最適解を見出す創造力を育む。

２　新金沢型学校教育モデルの具体的な方向性

（１）金沢ベーシックカリキュラム（何を学ぶか）

「創造力」を育むために、基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の育成を重点とした学習内容を示すことで、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にすることを目的とする。

①　デジタル力の育成

デジタル科の新設、教育課程をデジタル力育成の視点で編成（D（デジタル）タイムの位置づけ）、ＩＣＴ活用の充実

②　読解力の育成

教育課程を読解力育成の視点で編成（R（読解）タイムの位置づけ）、資料・新聞の活用、読書活動の充実

③　コミュニケーション力の育成

教育課程をコミュニケーション力育成の視点で編成（C（コミュニケーション）タイムの位置づけ）、
金沢ふるさと学習の充実、体験活動の充実

（２）金沢探究スタイル（どのように学ぶか）

デジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、「創造力」を育成することを目的とする。

①　探究的な活動の充実

課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する探究的な活動の充実

② **デジタルとリアルの往還**
ＩＣＴの活用とリアルな体験を通して感性を磨く学習の充実

③ **個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実**
主体的・対話的で深い学びの実現

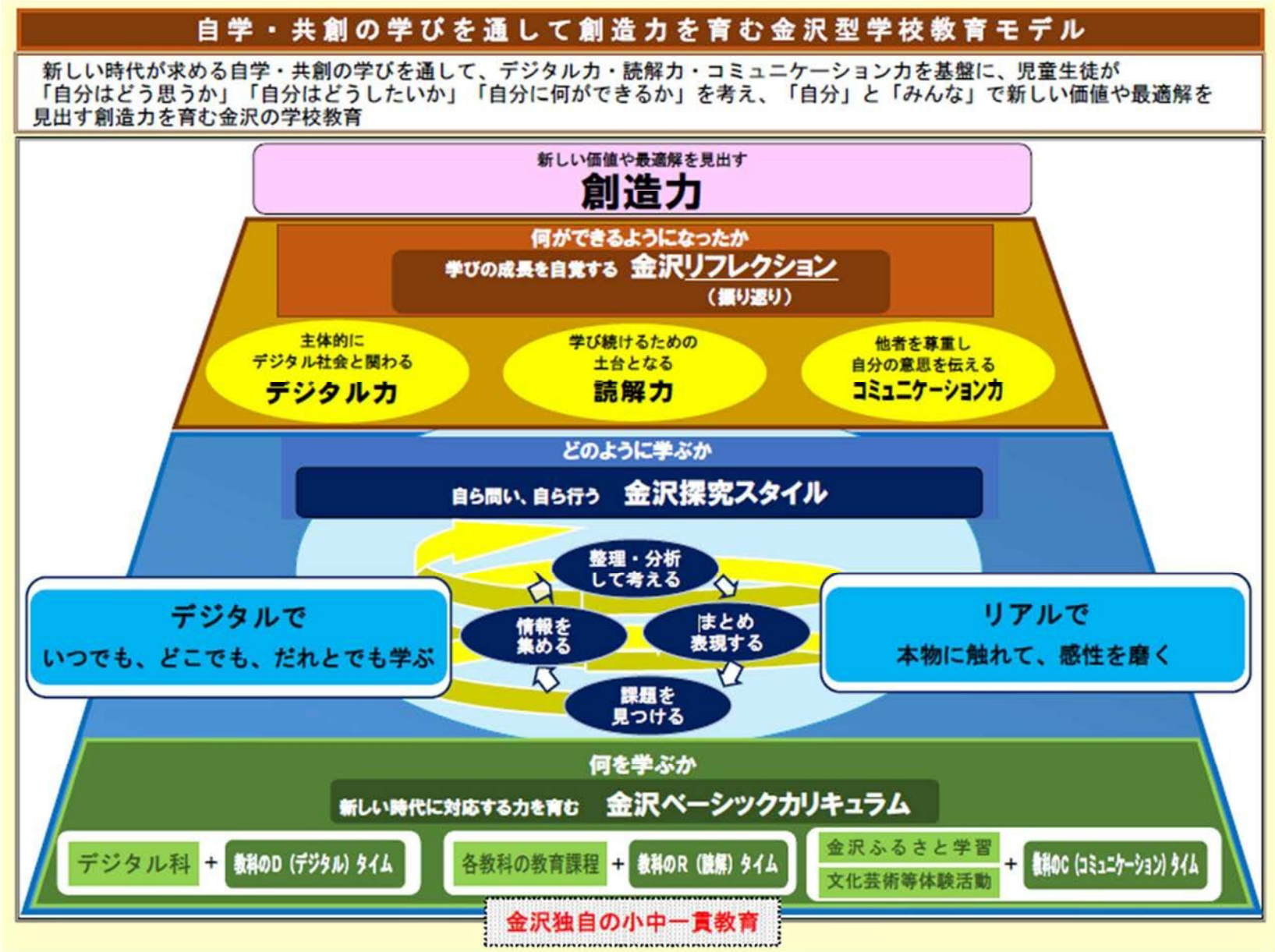
（３）**金沢リフレクション**（何ができるようになったか）
金沢ベーシックカリキュラム、金沢探究スタイル、土台となる金沢独自の小中一貫教育により、児童生徒がデジタル力・読解力・コミュニケーション力を身に付けることができたかを振り返り、学びの成長を自覚することを目的とする。

① **デジタル力の振り返り**
デジタル力を身に付けた子どもの姿　…　**「主体的にデジタル社会とかかわる姿」**

② **読解力の振り返り**
読解力を身に付けた子どもの姿　…　**「学び続けるための土台を身に付けた姿」**

③ **コミュニケーション力の振り返り**
コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿　…　**「他者を尊重し、自分の意思を伝える姿」**

体　系　図


自学・共創の学びを通して創造力を育む金沢型学校教育モデル
新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、児童生徒が「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考え、「自分」と「みんな」で新しい価値や最適解を見出す創造力を育む金沢の学校教育
新しい価値や最適解を見出す
創造力
何ができるようになったか
学びの成長を自覚する 金沢リフレクション
（振り返り）
主体的に
デジタル社会と関わる
デジタル力
学び続けるための
土台となる
読解力
他者を尊重し
自分の意思を伝える
コミュニケーション力
どのように学ぶか
自ら問い、自ら行う 金沢探究スタイル
整理・分析
して考える
情報を
集める
まとめ
表現する
課題を
見つける
デジタルで
いつでも、どこでも、だれとでも学ぶ
リアルで
本物に触れて、感性を磨く
何を学ぶか
新しい時代に対応する力を育む 金沢ベーシックカリキュラム
デジタル科
+
教科のD（デジタル）タイム
各教科の教育課程
+
教科のR（読解）タイム
金沢ふるさと学習
文化芸術等体験活動
+
教科のC（コミュニケーション）タイム
金沢独自の小中一貫教育

議案第　２４　号

金沢市図書館の開館時間の変更等について

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　　野口　　弘

金沢市図書館の開館時間の変更等について

金沢市図書館規則第４条の規定により、金沢市図書館の開館時間を下記のとおり変更します。

また、これに伴い、金沢市図書館規則第 14 条の規定により、玉川図書館及び玉川こども図書館の駐車場の入場時間を下記のとおり変更します。

記

１　目　　的

夏休み期間中、児童生徒の図書館の利用を促進し、子ども読書の推進を図ることを目的とする。

２　変更内容

午前１０時の開館時間を３０分繰り上げ、午前９時３０分とする。

玉川図書館及び玉川こども図書館の駐車場の入場時間を３０分繰り上げ、午前９時とする。

３　実施期間

令和６年７月２０日（土）から９月１日（日）まで（４４日間）

４　実施図書館

(1)玉川図書館（近世史料館を含む）

(2)泉野図書館

(3)玉川こども図書館

(4)金沢海みらい図書館

※玉川図書館城北分館は、通年、午前９時３０分開館。

議案第　２５　号

金沢市学校運営協議会規則の一部改正について

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　　野口　　弘

金沢市学校運営協議会規則の一部改正について

第８類第２章

改正理由

学校運営協議会が、職員の採用その他の任用に関する事項について任命権者に対して意見を述べることができる規定を整備する。

改正内容

１　学校運営協議会の学校運営に関する意見の申出対象の明確化

対象学校の職員の採用その他の任用に関する事項（特定の個人に係る事項を除く。）について、申出対象となる旨を明記

２　施行期日

公布の日

金沢市学校運営協議会規則の一部を改正する規則

金沢市学校運営協議会規則（平成28年教育委員会規則第９号）の一部を次のように改正する。

第５条第１項中「事項」の次に「（職員の採用その他の任用に関する事項を除く。）」を加え、同条第２項中「前項」を「前２項」に改め、「教育委員会」の次に「又は石川県教育委員会」を加え、同項を同条第３項とし、同条第１項の次に次の１項を加える。

２　協議会は、対象学校の職員の採用その他の任用に関する事項（特定の個人に関する事項を除く。）のうち、次に掲げる事項について教育委員会又は石川県教育委員会に対して意見を述べることができる。ただし、石川県教育委員会に意見を述べるときは、教育委員会を経由するものとする。

(1) 第２条に定める協議会の目的を踏まえた学校運営に関する基本的な方針の実現に資する事項

(2) 対象学校の教育上の課題の解決に資する一般的な事項

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

金沢市学校運営協議会規則（平成28年教育委員会規則第９号）新旧対照表

改正案	現　行
（趣旨） 第１条　この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第47条の５に規定する学校運営協議会（以下「協議会」という。）について必要な事項を定めるものとする。 （協議会の目的） 第２条　協議会は、学校運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関として、金沢市教育委員会（以下「教育委員会」という。）及び校長の権限と責任の下、地域の住民、保護者等（以下「地域住民等」という。）の学校運営への参画並びに地域住民等による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校と地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 （設置） 第３条　教育委員会は、前条の目的を達成するため、学校ごとに協議会を置くよう努めるものとする。ただし、２以上の学校の運営に関し相互に密接な連携を図る必要があると教育委員会が認める場合には、２以上の学校について一の協議会を置くことができる。 ２　教育委員会は、協議会を置くときは、当該協議会がその運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する学校（以下「対象学校」という。）を明示し、当該対象学校に対して通知するものとする。 ３　教育委員会は、協議会を置こうとするときは、対象学校の校長、対象学校の所在する地域の住民及び対象学校に在籍する生徒又は児童の保護者の意見を聴くものとする。 （学校運営に関する基本的な方針の承認等） 第４条　対象学校の校長は、次に掲げる事項について毎年度基本的な方針を作	（趣旨） 第１条　この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第47条の５に規定する学校運営協議会（以下「協議会」という。）について必要な事項を定めるものとする。 （協議会の目的） 第２条　協議会は、学校運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関として、金沢市教育委員会（以下「教育委員会」という。）及び校長の権限と責任の下、地域の住民、保護者等（以下「地域住民等」という。）の学校運営への参画並びに地域住民等による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校と地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 （設置） 第３条　教育委員会は、前条の目的を達成するため、学校ごとに協議会を置くよう努めるものとする。ただし、２以上の学校の運営に関し相互に密接な連携を図る必要があると教育委員会が認める場合には、２以上の学校について一の協議会を置くことができる。 ２　教育委員会は、協議会を置くときは、当該協議会がその運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する学校（以下「対象学校」という。）を明示し、当該対象学校に対して通知するものとする。 ３　教育委員会は、協議会を置こうとするときは、対象学校の校長、対象学校の所在する地域の住民及び対象学校に在籍する生徒又は児童の保護者の意見を聴くものとする。 （学校運営に関する基本的な方針の承認等） 第４条　対象学校の校長は、次に掲げる事項について毎年度基本的な方針を作

成し、協議会の承認を得るものとする。 (1) 教育課程の編成に関すること。 (2) 学校経営計画に関すること。 (3) その他対象学校の校長が第２条の目的を達成するために必要があると認める事項に関すること。 ２　対象学校の校長は、前項の規定により承認を得た基本的な方針に従って学校運営を行うものとする。 （学校運営等に関する意見の申出） 第５条　協議会は、対象学校の運営に関する事項**（職員の採用その他の任用に関する事項を除く。）**について、教育委員会又は校長に対して、意見を述べることができる。 **２　協議会は、対象学校の職員の採用その他の任用に関する事項（特定の個人に関する事項を除く。）のうち、次に掲げる事項について教育委員会又は石川県教育委員会に対して意見を述べることができる。ただし、石川県教育委員会に意見を述べるときは、教育委員会を経由するものとする。** **(1) 第２条に定める協議会の目的を踏まえた学校運営に関する基本的な方針の実現に資する事項** **(2) 対象学校の教育上の課題の解決に資する一般的な事項** **３**　協議会は、**前２項**の規定により教育委員会**又は石川県教育委員会**に対して意見を述べるときは、あらかじめ対象学校の校長の意見を聴くものとする。 （以下　略）	成し、協議会の承認を得るものとする。 (1) 教育課程の編成に関すること。 (2) 学校経営計画に関すること。 (3) その他対象学校の校長が第２条の目的を達成するために必要があると認める事項に関すること。 ２　対象学校の校長は、前項の規定により承認を得た基本的な方針に従って学校運営を行うものとする。 （学校運営等に関する意見の申出） 第５条　協議会は、対象学校の運営に関する事項＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿について、教育委員会又は校長に対して、意見を述べることができる。 **（新設）** **２**　協議会は、**前　項**の規定により教育委員会＿＿＿＿＿＿＿＿に対して意見を述べるときは、あらかじめ対象学校の校長の意見を聴くものとする。 （以下　略）

議案第　２６　号

金沢市立工業高等学校管理規則の一部改正について

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　　野口　　弘

金沢市立工業高等学校管理規則の一部改正について

第８類第２章

改正理由

庶務事務システムの導入に伴い、所要の改正を行う。

改正内容

１　出勤時刻又は退勤時刻の記録方法の見直し

現　行　原則として出勤簿に署名する方法

改正案　原則として庶務事務システムを使用する方法

２　施行期日

令和６年７月１日

金沢市立工業高等学校管理規則の一部を改正する規則

金沢市立工業高等学校管理規則（昭和46年教育委員会規則第４号）の一部を次のように改正する。

第26条の見出しを「（出勤の記録等）」に改め、同条第１項を次のように改める。

職員は、出勤したとき又は退勤するときは、庶務事務システム（教育長が指定する情報通信技術を利用した職員の勤務の管理等を行うためのシステムをいう。）を使用する方法により出勤時刻又は退勤時刻を記録しなければならない。ただし、これにより難い場合にあっては、職員の勤務時間の状況を把握する方法として教育長が別に定める方法によるものとする。

第26条第２項中「出勤簿その他の」を削る。

附　則

この規則は、令和６年７月１日から施行する。

金沢市立工業高等学校管理規則（昭和46年教育委員会規則第４号）新旧対照表

改正案	現行
第１章　総則	第１章　総則
（目的）	（目的）
第１条　この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第33条第１項及び第２項の規定に基づき、金沢市立工業高等学校（以下「学校」という。）の管理運営の基本的事項を定め、円滑かつ適正な学校経営に資することを目的とする。	第１条　この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第33条第１項及び第２項の規定に基づき、金沢市立工業高等学校（以下「学校」という。）の管理運営の基本的事項を定め、円滑かつ適正な学校経営に資することを目的とする。
（中略）	（中略）
第６章　職員の服務	第６章　職員の服務
（勤務時間）	（勤務時間）
第25条　職員の勤務時間、週休日（勤務時間を割り振らない日をいう。以下同じ。）等は、服務条例によるものとする。	第25条　職員の勤務時間、週休日（勤務時間を割り振らない日をいう。以下同じ。）等は、服務条例によるものとする。
２　事務職員等の勤務時間の割振りは、事務局長が行う。	２　事務職員等の勤務時間の割振りは、事務局長が行う。
３　校長及び事務局長は、勤務時間の割振りを行った場合は、あらかじめその割振りを所属職員に知らせなければならない。	３　校長及び事務局長は、勤務時間の割振りを行った場合は、あらかじめその割振りを所属職員に知らせなければならない。
（**出勤の記録等**）	（**出勤簿等**）
第26条　職員は、出勤したとき又は退勤するときは、庶務事務システム（教育長が指定する情報通信技術を利用した職員の勤務の管理等を行うためのシステムをいう。）を使用する方法により出勤時刻又は退勤時刻を記録しなければならない。**ただし、これにより難い場合にあっては、職員の勤務時間の状況を把握する方法として教育長が別に定める方法によるものとする。**	第26条　職員は**、定刻前に出勤し、出勤後直ちに出勤簿に署名しなければならない。ただし、出勤簿によらない職員にあっては**、出勤したとき又は退勤するときは、庶務事務システム（教育長が指定する情報通信技術を利用した職員の勤務の管理等を行うためのシステムをいう。）を使用する方法により出勤時刻又は退勤時刻を記録しなければならない。
２　職員の勤務時間の状況を把握するための出勤の記録等の整理の要領については、教育長が別に定める。	２　職員の勤務時間の状況を把握するための**出勤簿その他の**出勤の記録等の整理の要領については、教育長が別に定める。
（以下　略）	（以下　略）

議案第　２７　号

金沢子どもを育む行動推進委員会委員の委嘱等について
【非公開案件】

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　野口　弘

議案第　２８　号

金沢市社会教育委員の委嘱等について
【非公開案件】

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　野口　弘

報告第　６　号

令和６年度金沢市立小中学校児童・生徒数及び教員数について

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　野口　弘

令和６年度金沢市立小中学校児童・生徒数及び教員数について

１．学級数の推移

（単位：学級）

		平成26年	令和元年	令和5年	令和6年
小学校	通常学級	810	780	765	764
	特別支援学級	112	117	132	134
	小計	922	897	897	898
中学校	通常学級	344	318	313	316
	特別支援学級	46	43	59	62
	小計	390	361	372	378
合計	通常学級	1,154	1,098	1,078	1,080
	特別支援学級	158	160	191	196
	総合計	1,312	1,258	1,269	1,276

２．児童・生徒数の推移

（単位：人）

	平成26年	令和元年	令和5年	令和6年
小学校	23,734	23,292	22,147	21,860
中学校	11,904	10,994	10,829	10,864
合計	35,638	34,286	32,976	32,724

３．教員数の推移

（単位：人）

	平成26年	令和元年	令和5年	令和6年
小学校	1,239	1,236	1,246	1,254
中学校	696	664	691	690
合計	1,935	1,900	1,937	1,944

※教員数：校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、再任用教諭、欠員講師
（養護教諭・事務職員・栄養教諭の数を除く。）

（各年５月１日現在）

報告第　７　号

金沢市立小中学校の勤務時間記録の集計結果（令和５年度分）について

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　野口　弘

金沢市立小中学校の勤務時間記録の集計結果（令和５年度分）について

１　対象者数及び対象職種等　　※令和５年５月１日調査時点の人数

	学校数	教職員数	対象職種
小学校	54校	1,327名	校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、栄養職員、事務職員、講師（再任用拠点校指導教員、短時間再任用教諭、短時間非常勤講師は除く）
中学校	24校	720名	
合計	78校	2,047名	

２　時間外勤務時間の平均　　※（　）内はR４年度

	区分	１か月あたりの平均		内訳 勤務日		内訳 週休日・休日	
小学校	４～６月	46h37m	(48h40m)	45h19m	(47h22m)	1h17m	(1h17m)
	７～９月	25h00m	(26h21m)	24h32m	(25h46m)	0h27m	(0h34m)
	10～12月	36h11m	(37h35m)	35h29m	(36h49m)	0h42m	(0h46m)
	１～３月	32h35m	(33h44m)	31h57m	(33h11m)	0h37m	(0h33m)
	R５年度	35h06m	(36h36m)	34h20m	(35h48m)	0h46m	(0h48m)
中学校	４～６月	60h21m	(63h19m)	48h09m	(49h53m)	12h12m	(13h26m)
	７～９月	35h41m	(39h23m)	27h50m	(30h32m)	7h51m	(8h51m)
	10～12月	44h53m	(48h14m)	37h42m	(39h54m)	7h10m	(8h20m)
	１～３月	37h40m	(40h37m)	32h01m	(33h55m)	5h39m	(6h42m)
	R５年度	44h40m	(47h55m)	36h26m	(38h34m)	8h13m	(9h20m)

○「１か月あたりの平均」は、令和４年度と比較して、小学校で１時間30分、中学校で３時間15分減少した。
○「週休日・休日」は、令和４年度と比較して、小学校で２分、中学校で１時間07分減少した。

３　時間外勤務時間の分布　　※（　）内はR４年度

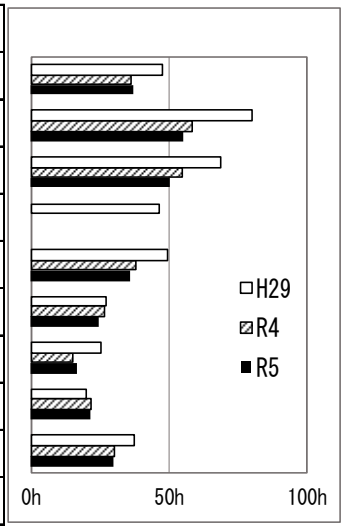
	区分	0～45h	45h～60h	60h～80h	80h～100h	100h超
小学校	４～６月	46.8%　(43.0%)	27.4%　(26.2%)	22.1%　(25.8%)	3.0%　(4.5%)	0.7%　(0.6%)
	７～９月	81.8%　(78.5%)	13.5%　(14.9%)	4.3%　(6.0%)	0.3%　(0.5%)	0.0%　(0.1%)
	10～12月	69.5%　(66.4%)	20.6%　(21.9%)	9.2%　(10.7%)	0.6%　(0.9%)	0.1%　(0.1%)
	１～３月	78.7%　(75.2%)	15.8%　(18.0%)	5.1%　(6.2%)	0.3%　(0.5%)	0.1%　(0.1%)
	R５年度	69.2%　(65.8%)	19.3%　(20.2%)	10.2%　(12.2%)	1.1%　(1.6%)	0.2%　(0.2%)
中学校	４～６月	32.5%　(28.6%)	19.8%　(19.1%)	25.3%　(27.3%)	13.3%　(14.5%)	9.2%　(10.5%)
	７～９月	67.8%　(60.8%)	12.6%　(14.0%)	12.2%　(15.6%)	5.1%　(6.1%)	2.2%　(3.4%)
	10～12月	54.5%　(49.7%)	21.1%　(21.9%)	16.2%　(18.7%)	5.5%　(6.1%)	2.7%　(3.6%)
	１～３月	67.7%　(62.5%)	18.0%　(20.3%)	11.0%　(13.6%)	2.2%　(2.1%)	1.1%　(1.5%)
	R５年度	55.6%　(50.4%)	17.9%　(18.8%)	16.2%　(18.8%)	6.5%　(7.2%)	3.8%　(4.8%)

○１か月あたりの平均が８０時間を超える者の割合は、令和４年度と比較して小学校で0.5ポイント、中学校で1.7ポイント減少した。

４　令和５年度の職種別集計

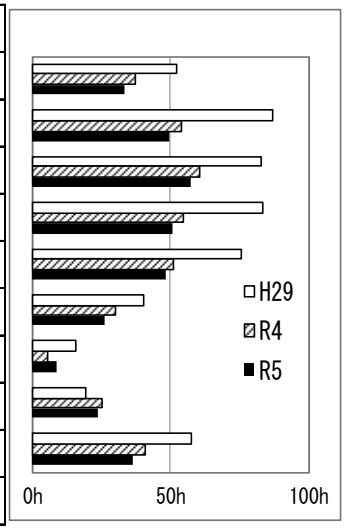
(1) 小学校　※（　）内はR4年度

職種	令和５年度の平均	80～100h	100h超	対象人数
校長	37h30m (36h19m)	0.7%	0.2%	51
教頭	55h25m (58h30m)	6.2%	1.7%	54
主幹教諭	50h27m (55h09m)	4.9%	2.7%	19
指導教諭				
教諭	36h11m (37h54m)	0.9%	0.1%	918
養護教諭	24h43m (26h52m)	0.3%	0.0%	53
栄養教諭等	16h38m (15h00m)	0.0%	0.0%	18
事務職員	21h29m (21h42m)	0.9%	0.0%	56
講師	29h44m (30h24m)	0.4%	0.2%	158
総計	35h06m (36h36m)	1.1%	0.2%	1,327



(2) 中学校　※（　）内はR4年度

職種	令和５年度の平均	80～100h	100h超	対象人数
校長	33h10m (37h10m)	0.7%	0.0%	24
教頭	49h32m (53h48m)	2.7%	1.3%	25
主幹教諭	57h30m (60h28m)	11.7%	4.4%	15
指導教諭	50h30m (54h29m)	11.1%	5.6%	3
教諭	48h09m (51h19m)	8.0%	4.9%	519
養護教諭	26h14m (29h49m)	1.7%	1.0%	26
栄養教諭等	8h53m (5h28m)	0.0%	0.0%	5
事務職員	23h59m (25h14m)	1.2%	0.9%	28
講師	36h40m (40h58m)	2.6%	0.9%	75
総計	44h40m (47h55m)	6.5%	3.8%	720



○１か月あたりの平均が最も多いのは、小学校は教頭、中学校は主幹教諭である。

○令和４年度と比較して増加したのは、小学校では校長及び栄養教諭等であり、中学校では栄養教諭等である。

報告第　８　号

令和６年度金沢市教員採用候補者選考試験の申込状況について

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　野口　弘

令和６年度　金沢市教員採用候補者選考試験の申込状況について

１　申込状況

試験区分	採用予定数	申込者数
国語	若干名	５名
工　業（電気）	若干名	１名
工　業（電子情報）	若干名	０名
工　業（建築）	若干名	０名
計		６名

２　第１次試験について

(1) 試　験　日　　令和６年６月２９日（土）

(2) 試験会場　　金沢市立工業高等学校（畝田東１－１－１）

(3) 試験科目　　教養試験、専門試験、適性検査、集団面接、教科実技

(4) 合否通知　　８月上旬に受験者全員に郵送で通知

※市ホームページでも合格者受験番号を掲載

報告第　９　号

令和６年度かなざわ市民アカデミーについて

令和６年６月２６日　提出

金沢市教育委員会
教育長　野口　弘

令和６年度かなざわ市民アカデミーについて

金沢が誇る地域文化や新たなジャンルから、テーマを一つ取り上げ、段階的に学ぶことができる生涯学習講座『かなざわ市民アカデミー』を開催する。

より多くの方に参加していただけるよう、対面とオンラインの併用により講演会を開催するなど、学ばれる方が時間と場所を選択し、学習を進めることができる流れとしている。

１　令和６年度テーマ　　スポーツで人とまちを元気に

２　かなざわ市民アカデミーの流れ

導入　学びと出会う

・対面式（LIVE 配信あり）

・１０月２２日（火）

・福田正博氏による講演

探求　学びを深める

・オンライン動画配信

・１０月下旬～

・テーマに関連した
市オリジナル映像講座

展開　学びを広げる

・自学

・１１月～３月

・図書館のおすすめ本コーナーや
市の関連事業、イベントなど
情報提供

３　講演会内容・日程

日　　時	令和６年１０月２２日（火）　１８：３０～２０：００
会　　場	金沢市文化ホール
出　　演	福田　正博 氏（元サッカー日本代表）
定　　員	７６０人　※応募多数の場合は抽選
受 講 料	１，０００円
申込期間	令和６年７月１日（月）から９月２０日（金）まで
申込方法	電子申請サービス、電話、メール ※申込者全員に抽選結果を連絡（９月下旬予定）
LIVE 配信	会場開催の様子を有料で LIVE 配信

資料１

新金沢型学校教育モデルについて
［答申］

令和６年６月７日

次期金沢型学校教育モデル構築会議

目　　次

頁

はじめに　……　1

1　新金沢型学校教育モデルの構築に当たって　……　2

2　新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方　……　5

3　新金沢型学校教育モデルの具体的な方向性　……　7

4　新金沢型学校教育モデル実践に当たっての留意点　……１５

次期金沢型学校教育モデル構築会議設置要綱及び構築委員　……２０

（別紙）参考資料

はじめに

本会議は、金沢市教育委員会の諮問に応じて、「次期金沢型学校教育モデル（仮称）」を構築することを目的に、令和５年５月に設置された。本会議は、学識経験者・有識者、経済・文化関係者、保護者・地域関係者、学校関係者からなる委員で構成され、約９ヶ月にわたる４回の会議での審議を経て、「新金沢型学校教育モデル」を答申するに至った。

金沢市は、伝統・文化を尊重すると同時に、社会の動向や国の教育改革の動向を見すえつつ、新しい教育モデルを提言し、全国からも注目されてきた。実際、本市は、平成 28 年度に、学習指導要領の改訂と「金沢市学校教育振興基本計画」に従い、めざすべき金沢の子ども像の実現にむけて、「金沢型学習プログラム」・「金沢型学習スタイル」・「金沢型小中一貫教育」からなる調和ある「金沢型学校教育モデル」を構築し、その実践に取り組み、質の高い教育を推進してきた。

昨今、デジタル化や多様性の急速な進展の下で、学校教育やそれを取り巻く社会環境も大きく変貌している。金沢市教育委員会は、このような状況に賢明に対応するべく「金沢市学校教育振興基本計画」を改定した。この改定に合わせ、未来を創る金沢市の子どものためにより質の高い教育水準の確立を目指し、現行の「金沢型学校教育モデル」の検証を行い「次期金沢型学校教育モデル」を構築するために、本構築会議を設置した。本構築会議の組織の重厚さは、次代の教育モデル構築に向けた不退転の決意の証であり、各委員は、次代の金沢の教育モデル構築に向けて、多様な視座から建設的な提案を行った。

本構築会議は、現在の「金沢型学校教育モデル」を構成する３つの要素（金沢型学習プログラム、金沢型学習スタイル、金沢型小中一貫教育）に関する市立小中学校長への調査結果を踏まえた成果と課題を共有し議論の根拠とした。４回の会議では、現下の優れた成果をいかし、直面する課題の最適解を見出すことを旨とし、金沢の子どもたちが明るく幸せな未来を創るために必要な資質・能力を育成するために学校教育が重視するべき新しい構成要素について提案・協議・改良・合意を図りつつ、協働的な問題解決に取り組んだ。

「新金沢型学校教育モデル」は、金沢独自の小中一貫教育のもとで、新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、新しい価値や最適解を見出す「創造力」の育成を目指すものである。本モデルでは、次代を展望しつつ現下のモデルを発展的に拡充し、「金沢ベーシックカリキュラム」では「デジタル力」・「読解力」・「コミュニケーション力」の３つの力の重点的な育成、「金沢探究スタイル」では「探究的な活動の充実」・「デジタルとリアルの往還」・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」、そして「金沢リフレクション」では３つの力を振り返り、学びの成長を自覚するなど、それぞれ、模範的な取り組み例を挙げている。

金沢市教育委員会においては、本モデルで重点を置いている「新」金沢型の特色を関係者に周知するとともに、本モデルの特色を最大限に発揮できるよう条件整備に意を注ぎ、予測困難な時代において未来を創る金沢市の子どもの資質・能力の育成に取り組むよう、教職員の専門性と主体性とを尊重することを希望し、本会議の答申書を提出する。

令和６年６月

次期金沢型学校教育モデル構築会議
委員長　大谷　実

１　新金沢型学校教育モデルの構築に当たって

(1) 構築の背景と経緯

本市では、平成 16 年度から「世界都市金沢」小中一貫英語教育、学習指導基準金沢スタンダード、学校２学期制の３つの柱からなる「学校教育金沢モデル」を推進しており、平成 21 年度からは、新たに金沢「絆」教育を加えた「第２次学校教育金沢モデル」の実践に取り組んできた。

「第２次学校教育金沢モデル」の柱の１つであった学校２学期制については、同じく２学期制を実施してきた政令市や中核市の動向も踏まえ、金沢市立小中学校学期制検討委員会を設置し、その提言（平成 25 年５月）を受けて、平成 26 年度より「学びのステップを大切にした新たな３学期制」へ移行している。

また、平成 14 年に「金沢子ども条例（子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例）」が施行され、これに基づき、大人が具体的にどのような行動をしていくべきなのかをまとめた金沢子どもを育む行動計画をはじめ、金沢市健康教育推進プラン、金沢市特別支援教育指針、金沢子ども読書推進プラン等を策定してきた。さらに、平成 27 年１月、本市学校教育の一層の振興を図るため、中長期の視点に立っためざすべき学校教育の姿や取り組むべき施策等を明らかにした「金沢市学校教育振興基本計画」を策定し、この計画に基づき、総合的な施策を実践していくこととなった。

これに伴い、「金沢市学校教育振興基本計画」の基本理念やめざすべき金沢の子ども像の実現に向けて、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化し、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進していくことが大切であると考え、平成 28 年度より、「何を学ぶか」という内容として「金沢型学習プログラム」、「どのように学ぶか」という方法として「金沢型学習スタイル」、それらを支える学びの土台として「金沢型小中一貫教育」の３つの要素で構成された「金沢型学校教育モデル」の実践に取り組んできた。

その間、「金沢市学校教育振興基本計画」の改定をはじめ、学習指導要領の改訂や GIGA スクール構想といった学校教育におけるデジタル化の急速な進展など、現行のモデル構築時とは環境が大きく変化してきた。

そのため、予測困難な変化や急速に進行する多様化に対応し、未来を創るために必要な力を身に付けることができる金沢の子どもたちを育成するため、新しい時代が求める学びの在り方を踏まえた次期金沢型学校教育モデルを構築し、本市において高い教育水準の確立をめざすこととした。

まずは、「金沢型学校教育モデル」の３つの要素（金沢型学習プログラム、金沢型学習スタイル、金沢型小中一貫教育）について検証することから始めた。検証に当たっては、市立小中学校長を対象とした意識調査を行い、その調査結果等を踏まえて、成果と課題を明らかにしていった。

(2)金沢型学校教育モデルの成果と課題

意識調査結果等を踏まえて、明らかになった金沢型学校教育モデルの成果と課題は、以下のとおりである。

①　金沢型学習プログラムの成果と課題

ア　金沢ベーシックカリキュラムについて

【成果】○金沢ベーシックカリキュラムを基準に、児童生徒の実態や地域の特色等を踏まえ、各学校の特色ある学習内容を加えることで、知・徳・体の調和のとれた学習を展開することができた。

○どの時期にどの単元を実施すればよいかの指標になり、学習のねらい等を把握して学習計画を立案し、実践することで、確実な履修を図ることができた。

【課題】・学力調査結果等の学校の実態を踏まえ、創意工夫を凝らした授業を実践するための、カリキュラムマネジメントを適切に行う必要があった。

イ　金沢ふるさと学習について

【成果】○学年テーマを基に、地域とのつながりから、ふるさと金沢の魅力を知り、興味をもったり驚きを感じたりしながら深く学習することができた。

○地域の特色や人材等、地域資源を生かすことで、金沢のまちに愛着と誇りをもったまちづくりの担い手を育むことができた。

【課題】・小学校と中学校の内容に重複があったり、地域の特色や人材が不足したりするため、自分なりの提案を考え伝えるなど取組の充実を図ることやねらいの達成が難しい場面があった。

ウ　金沢「絆」活動について

【成果】○小･中学校の共通した取組や小中連携によって､主体的に取り組む姿が見られ、様々な学校との交流が生まれることでよい刺激となり、活動の充実や意識の向上が見られた。

○「金沢子どもかがやき宣言」に基づいたテーマを共通実践することで意識の向上につながった。

【課題】・感染症対策や天候不良、教員の多忙化により活動が制限され、活動が単発や形式的になり、本来の目的や意図に応じた活動を行うことができない状況が見られた。

エ　その他

【成果】○「金沢ベーシックカリキュラム」は、実態を踏まえた指導の重点がカリキュラムに反映され、指導事項が明確で、全国に誇れる教育課程であり、教員にとっての指導の指針になった。

【課題】・金沢「絆」活動を、SDGs の視点など新しい時代に求められる資質・能力で整理し、金沢への愛着や誇りが深まるようにする必要があった。

②　金沢型学習スタイルの成果と課題

ア　金沢型学習スタイルについて

【成果】○小・中学校における基本となる学習方法や指導方法が示されているので、若手教員も金沢型学習スタイルをベースに授業を組み立てることができ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた問題解決的な学習を推進することができた。

○金沢型学習スタイルを基盤として学校研究を推進したことで、問題解決的な学習の流れが教師にも児童生徒にも定着し、児童生徒の対話が増え、深い学びにつながった。

【課題】・型にとらわれると、教師主導となり、児童生徒の主体性を引き出すことや終末段階での児童生徒の見取りや学びの深まりが十分ではなかった。

イ　その他

【成果】○金沢型学習スタイルがあることで指導しやすく、主体的・対話的な学習への意識は定着してきたことから、引き続き全市で確実に取り組めるとよい。

【課題】・金沢型学習スタイルにおける考えを深める取組や、ICT 版金沢型学習スタイルを意識し、効果的な場面において１人１台学習用端末を取り入れることが必要であった。

③　金沢型小中一貫教育の成果と課題

ア　金沢型小中一貫教育について

【成果】○小・中学校での教員相互の授業参観等でどんな力をつけたいのかが明確となり小・中学校で学習規律や家庭学習等９年間を見通した連続性のある教育活動を展開することができた。

○校区の実情や児童生徒の実態に応じた小中連携を推進したことで、小学校６年生と中学校１年生の接続がスムーズになり、児童生徒の不安感を減らすことができた。

【課題】・小・中学校での教員相互の授業参観等の日程調整が難しく、特にコロナ禍においては、９年間を見通した教育活動を行う意識が希薄になり、より効果的な交流の在り方を考える必要があった。

イ　その他

【成果】○小・中学校ともに、９年間を見通して「学び」と「育ち」をつなげることが大切であり、小・中学校の教員が、一緒に教育について協議する機会を充実させることができた。

【課題】・地域の特色を把握し、具体的な目標や内容を明確にして実施することも大切であった。

２　新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方

IoT やビッグデータ、AI 等の技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、国全体のデジタル化の取組が進む中、教育分野においても GIGA スクール構想をはじめ、デジタル技術の効果的活用を図ることが期待されている。一方で、AI がいかに進化しようとも、人間は、自ら課題を設定し、その課題に応じて必要な情報を基に、深く理解して自分の考えをまとめたり、表現を工夫したり、多様な他者と協働しながら目的に応じて粘り強く新しい価値や最適解を見出したりすることができる強みがある。

金沢市学校教育振興基本計画では、「明日を拓き　社会を担う　金沢発のひとづくり　～『心』と『力』を育む学校教育～」を基本理念に掲げ、この中で、「児童生徒には、時代の変化に対応するための多様な能力を備えることが強く求められていること」「多くの仲間や教員との交流を通して、明日を切り拓くために大切な『心』と『力』を身に付けることが必要であること」が明記されている。

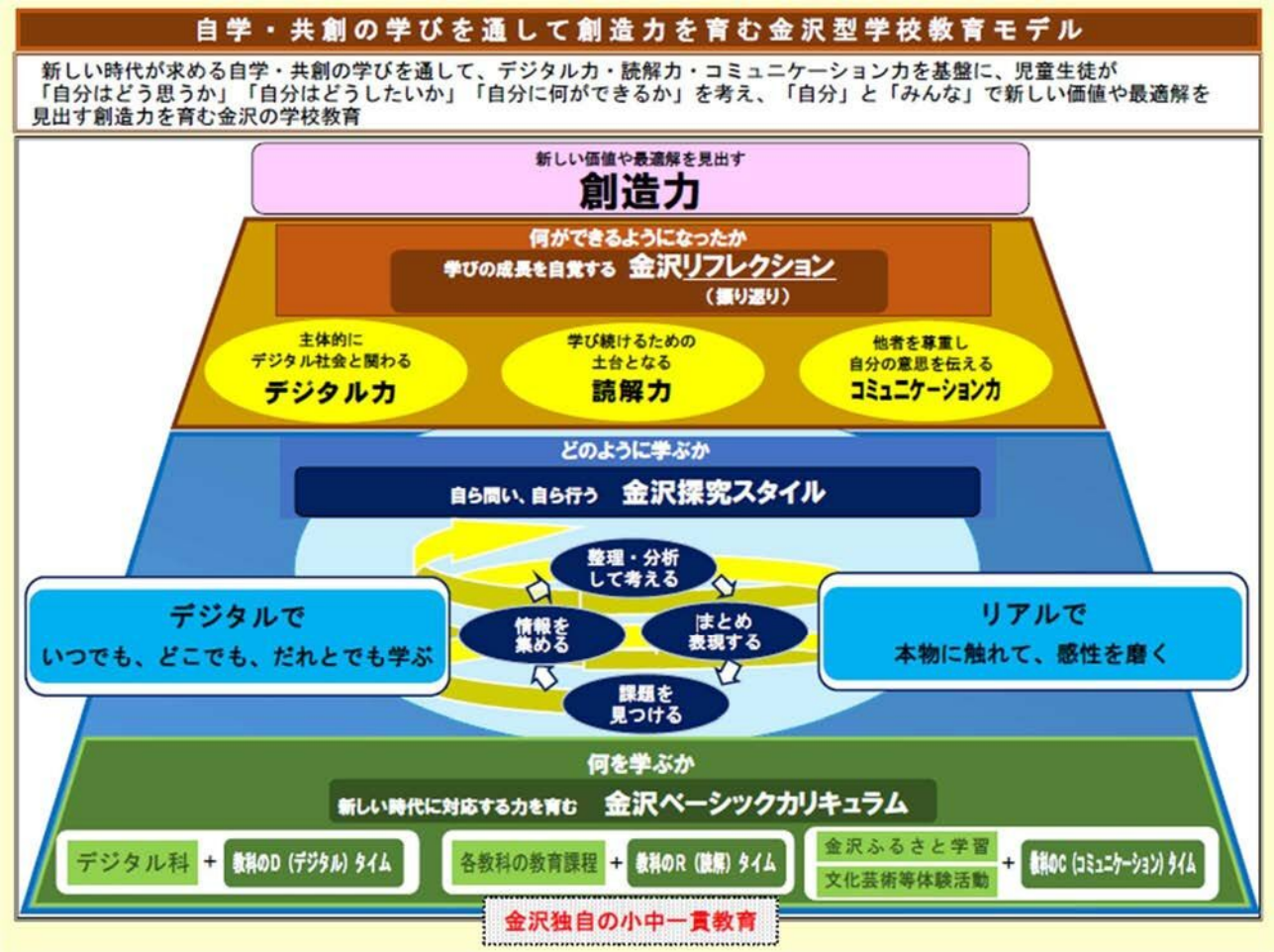
この基本理念と金沢型学校教育モデル（ICT 版を含む）の検証結果を踏まえ、新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、主体的にデジタル社会と関わる「デジタル力」、学び続けるための土台となる「読解力」、他者を尊重し自分の意思を伝える「コミュニケーション力」の３つの力を基盤に、児童生徒が「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考え、「自分」と「みんな」で新しい価値や最適解を見出す「創造力」を育む新たな学校教育モデルとして「新金沢型学校教育モデル」を構築し、金沢市学校教育振興基本計画において掲げている豊かな「心」と多様な「力」を備えた「めざすべき金沢の子ども像」の実現を図っていく。

「新金沢型学校教育モデル」は、児童生徒が「何を学ぶか」として新しい時代に対応する力を育む「金沢ベーシックカリキュラム」、「どのように学ぶか」として、自ら問い、自ら行う「金沢探究スタイル」、「何ができるようになったか」として児童生徒が学びの成長を自覚する「金沢リフレクション（振り返り）」の３つの要素で構成される。

金沢は、未来を拓く世界の共創文化都市を目指し、伝統を守りながら、多様な人達が立場や世代を超えてつながり合い、新たな価値を創造し、持続可能な発展を続ける社会の実現に向けて取り組んでいるまちである。「新金沢型学校教育モデル」においても、時間・空間・世代を超えてつながることができるデジタルの利点と、歴史・伝統文化・自然等に触れ、感性を豊かに働かせることができる金沢の利点とを融合しながら、探究的な学びを通して、新しい時代が求める「創造力」を育んでいく。

また、中学校区における小中連携を引き続き推進する「金沢独自の小中一貫教育」により、９年間を見通した連続性のある教育活動を展開し、児童生徒の学びと育ちをつなげていく。

体系図



新しい価値や最適解を見出す過程で見られる子どもの姿

〇課題を見つける
〇解決に向けて深く考える
〇他者と協力して活動する
〇感性豊かに表現する
〇粘り強く挑戦する

３　新金沢型学校教育モデルの具体的な方向性

新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方に基づき、具体的な方向性を以下のように示す。

(1) 金沢ベーシックカリキュラム

「金沢ベーシックカリキュラム」は、「創造力」を育むために、基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の育成を重点とした学習内容を示すことで、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にすることを目的とする。

具体的には、デジタル力の育成のために「デジタル科の新設」と「各教科の教育課程にＤ（デジタル）タイムを位置付け」、読解力の育成のために「各教科の教育課程の編成」と「各教科の教育課程にＲ（読解）タイムを位置付け」、コミュニケーション力の育成のために「金沢ふるさと学習の改訂」、「体験活動の充実」と「各教科等の教育課程にＣ（コミュニケーション）タイムを位置付け」を実施する。

① デジタル力の育成

ICT の日常的な活用を前提に、ICT の負の側面を認識しつつ、「正しく活用するために、何が求められているのか」、「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画するための力を育成する「デジタル・シティズンシップ教育」の充実を図る。

そのために、９年間を見通した連続性のあるカリキュラムを編成することに加え、重点的に情報活用能力を育成する時間を設定し、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する探究的な活動を通して、主体的にデジタル社会と関わるデジタル力の育成を図る。

ア　デジタル科の新設

プログラミング教育ベーシックカリキュラム（第二版）を改訂した発展的プログラミング学習やデータ活用探究学習等を実施したり、デジタル・シティズンシップ教育の充実を図ったりするデジタル科を新設する。

イ　教育課程を「デジタル力」の育成の視点で編成

情報活用能力体系表を改訂し、各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「デジタル力」育成の視点で編成し、「Ｄタイム」として位置付ける。

ウ　ICT 活用の充実

各教科等で日常的に１人１台学習用端末を活用し、デジタルを活用した探究的な活動に取り組む。

② 読解力の育成

各教科等において、文章・図表・動画等から情報を収集、整理・分析したり、情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるかを読み取ったり、他者の思いを読み取ったりすることなどを通して、学び続けるための土台となる読解力の育成を図る。

ア　教育課程を「読解力」育成の視点で編成

各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「読解力」育成の視点で編成し、「Ｒタイム」として位置付ける。

イ　資料・新聞等の活用

文章、図表、動画等の幅広い情報を基に、自分の考えを整理し、文と文のつながりに着目して、まとまりのある文章を書くなどの表現活動の充実を図ることに加え、複数の資料を関連付け、考えを形成したり再構築したりする。

（例）・新聞、書籍の活用（電子版を含む）
　　・インターネット等から情報収集、分析し、考察したことを基にディベートの実施
　　・全国学力・学習状況調査の活用　など

ウ　読書活動の充実

授業のねらいに沿って学校図書館を活用し、デジタル資料と図書資料の利点を融合しながら、読書の質の向上に向けた取組を推進する。

③ コミュニケーション力の育成

学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題について、児童生徒が ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりしながら、自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりするなど、探究的な活動に取り組むことを通して、他者を尊重し自分の意思を伝えるコミュニケーション力の育成を図る。

ア　教育課程を「コミュニケーション力」の育成の視点で編成

各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを対話やプレゼンテーション能力を意識した「コミュニケーション力」育成の視点で編成し、「Ｃタイム」として位置付ける。

（例）・算数・数学科で、データの分析結果をプレゼン
　　・英語科・外国語科で、調べた国の情報を英語でプレゼン

イ　金沢ふるさと学習の充実

金沢ふるさと学習を SDGs、G7 教育大臣会合「富山・金沢宣言」の視点で改訂する。

ウ　体験活動の充実

伝統文化・工芸、歴史的建造物等に触れる活動、音楽、美術、劇等の本物に触れる活動、多様な価値観・文化に触れる国際理解教育の充実を図る。

（例）オーケストラ、ミュージアムクルーズ、素囃子、偉人館博物館、
宿泊体験・修学旅行、キャリア教育　など

(2) 金沢探究スタイル

「金沢探究スタイル」は、「金沢型学習スタイル（ICT 版を含む）」とデジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、「創造力」を育成することを目的とする。

具体的には、教科の学習をはじめ、学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題などを、自分のこととして受け止め、多様な他者と協働するなど、解決に向けた活動の充実を図ること、ICT を効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習を往還すること、個別最適で協働的な学びの一体的充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びを通して、各教科等の資質・能力を育成することを重視する。

① 探究的な活動の充実

本市では、これまで「金沢型学習スタイル（ICT 版を含む）」に基づき、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習、分かる・できる喜びのある学習、好ましい人間関係に基づく学習の３点を重視し、併せて１人１台学習用端末等を活用した授業改善を推進してきた。これを基盤に、探究的な活動や体験活動を通じ、課題を自分のこととして受け止め、多様な他者と協働しながら各教科等の資質・能力の育成を図ることを重視する。

そのために、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する探究的な活動の充実を図る。

ア　課題設定

児童生徒が目標に基づいて課題を設定したり、学習対象への興味・関心に基づいて課題を設定したり、リフレクションに基づいて課題を設定したりする。

（例）・前時との比較、体験活動
　　・理想と現実のずれ　など

イ　情報収集

児童生徒が各教科の見方・考え方を働かせて情報収集、情報の蓄積を図る。

（例）・実験・観察、追体験　など

ウ　整理・分析

児童生徒が情報を比較分類したり関連付けを図ったりする。

（例）・ICT や発達段階に応じた思考ツールの活用　など

エ　まとめ・表現

児童生徒が相手意識や目的意識をもったまとめ・表現をし、考えの再構築を図る。

（例）・ICT の活用、制作活動　など

② デジタルとリアルの往還

ICT を効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習の充実を図る。

具体的には、様々な場面で、デジタルとリアルを使い分けたり、組み合わせたりしながら、教科の内容と日常生活を関係付けたり、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせたり、自分のこととして捉え考えたりする学習を重視する。

③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、多様な他者と協働的に学んだりしながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

ア　デジタルを活用した個別最適な学び

課題設定、情報の検索、データの処理や視覚化、レポート作成等で ICT を効果的に活用し、個々が選んだ方法を用いて課題を解決する。

（例）・課題設定（電子新聞・電子書籍の活用等）
　　・整理分析（統計的手法、思考ツールの活用等）など

イ　デジタルを活用した協働的な学び

時間的・空間的制約を超えて音声・画像・データ等を送受信し、多様な人たちと、異なる視点で情報共有を図ることで、考えを広げ、深める。

（例）・ICT で共同編集
　　・多様な意見を共有しつつ、合意形成
　　・デジタルで国内外へ発信　など

ウ　リアルな体験を通した個別最適な学び

地域での体験活動や各分野の専門家との交流を通して、互いの考え方や感性を刺激し合い、個々が選んだ方法を用いて発見した課題を解決する。

（例）・情報収集（体験活動、図書館、アンケート等）
　　・まとめ・表現（パネルディスカッション等）など

エ　リアルな体験を通した協働的な学び

様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできる実感をもつことを繰り返すことで、主体的に学びに向かい、学んだことを生かす。

（例）・学校、地域・企業等、社会に向けての報告　など

(3) 金沢リフレクション

何を学ぶかを示した「金沢ベーシックカリキュラム」、どのように学ぶかを示した「金沢探究スタイル」、土台となる金沢独自の小中一貫教育により、児童生徒がデジタル力・読解力・コミュニケーション力について、身に付けることができたかを振り返り、学びの成長を自覚することを目的とする。

具体的には、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿を明確にし、児童生徒が各教科等の授業の振り返りを通して、学びの成長を自覚できるようにする。また、学校等が学びをアウトプットする場を設定したり、客観的な資料を提供し、児童生徒が活用できるようにしたりする。

① デジタル力の振り返り

デジタル力を身に付けた子どもの姿

「主体的にデジタル社会と関わる姿」

◯ICT を日常的に活用する

◯課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現する探究的な活動で ICT を効果的に活用する

◯「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画する　など

ア　各教科等

・ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返りや相互評価

・Ｄタイムで学びを自覚する自己評価　など

イ　全国学力・学習状況調査等

・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙にある「PC、タブレットなどの ICT 機器の使用頻度」、「PC、タブレットを活用することの有用性」についての質問項目の活用

・学校評価の学校評価計画に重点目標、デジタル力を観点とした評価項目・指標を明記

・学期毎に１人１台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施　など

ウ　情報活用能力検定

・情報活用能力体系表（文科省）に基づく、情報活用能力調査　など

エ　ロボットコンテスト等

（例）・校内ロボットコンテストの実施

・希望者が大学等主催のプログラミング大会に参加　など

② 読解力の振り返り

読解力を身に付けた子どもの姿

「学び続けるための土台を身に付けた姿」

〇文章、図表、動画等から情報を収集、整理・分析する
〇情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるか読み取る
〇他者の思いを読み取る　など

ア　各教科等

・ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返りや相互評価
・Ｒタイムで学びを自覚する自己評価　など

イ　全国学力・学習状況調査等

・全国学力・学習状況調査の国語の「読むこと」「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」のうち、根拠を基に深く考えることに適した問題で検証
・児童生徒質問紙にある読書活動に関することの「授業時間以外の読書時間」、「図書館の利用頻度」についての質問項目の活用
・学校評価の学校評価計画に重点目標、読解力を観点とした評価項目・指標を明記
・学期毎に１人１台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施　など

ウ　読解力検定等

（例）・文章を正確に理解し、利用し、熟考する調査
　　・NIE の取組、読書感想文、自由研究　など

③ コミュニケーション力の振り返り

コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿

「他者を尊重し、自分の意思を伝える姿」

〇ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりする
〇自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりしながら探究的な活動に取り組む
〇目的や相手に応じて、分かりやすくプレゼンする　など

ア　各教科等

・ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返りや相互評価
・Ｃタイムで学びを自覚する自己評価　など

イ　全国学力・学習状況調査等

・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙にある話し合いに関することの「自分の考えを深めたり、広めたりする」「互いの意見の良さを生かして解決方法を決める」と、地域や伝統、外国に関することの「地域や社会をよくするために何かしたい」についての質問項目の活用
・学校評価の学校評価計画に重点目標、コミュニケーション力を観点とした評価項目・指標を明記
・学期毎に１人１台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施　など

ウ　フォーラム、ジュニア金沢検定等

（例）・金沢ふるさと学習で設定した課題の解決方法について、金沢 SDGs 子どもフォーラム等で紹介
・希望者が英語スピーチコンテストに参加
・希望者がジュニア金沢検定に参加　など

４　新金沢型学校教育モデル実践に当たっての留意点

新金沢型学校教育モデルの実践に当たっては、モデルに基づく教育活動が一層効果を発揮するよう、以下の点に留意する。

(1) 教職員の理解と組織的な対応

新しい価値や最適解を見出す創造力を育む、新金沢型学校教育モデルに基づく教育活動を実践するためには、全ての学校の教職員一人一人が、基本的な考え方、具体的な方向性について十分に理解し、目的意識を明確にして必要感のある取組となるよう配慮することが重要であり、そうした日々の教職員による実践の積み重ねが着実に成果につながっていくと考える。

そのために、校長を中心とした全教職員による共通理解のもと、組織的な取組となるよう工夫することが求められる。そのことは、協力・協働の学校運営につながり、教育現場の抱える問題の一つである教職員の多忙化改善の一助となると考える。

(2) 保護者・地域等への発信

新金沢型学校教育モデルについては、上記のように全ての教職員がその趣旨等について理解し、実践していくことが大切であるが、加えて、保護者や地域に発信し、十分な理解のもと、学校の教育活動への協力を得ることにより、その効果が高まることが期待される。さらに、家庭教育や地域の行事等においても、学校と同じ方向性で教育活動を行うよう連携を求めることができれば、一層の効果が期待できる。

そのために、新金沢型学校教育モデルについては、保護者や地域の方にとって、できるだけ分かりやすい表現で発信するよう工夫することが求められる。そのことは、保護者や地域の方だけでなく、児童生徒の理解にもつながり、児童生徒と教職員・保護者・地域が一体となって教育活動を推進することが可能になる。また、学校からの一方向の発信に止まらず、学校は地域の活動等を理解し、双方向に連携を図ることも大切である。

(3) 取組の検証

新金沢型学校教育モデルの実践に当たっては、具体的な取組によって、創造力を身に付けた子ども像の実現に迫ることができたかについて、検証を行っていくことが大切である。

そのために、例えば、各学校では、学校評価計画に新金沢型学校教育モデルに係る重点目標や、「金沢ベーシックカリキュラム」「金沢探究スタイル」「金沢リフレクション」を観点とした評価項目・指標を明記するなど、取組を確実に行い、成果を実感できるよう工夫することが求められる。

また、教育委員会は、学校訪問等により取組状況の把握に努めるとともに、各学校の評価結果や各種調査結果を集計・分析して、市全体として新金沢型学校教育モデルの実践状況や成果等を検証し、必要な指導や施策による支援を行う必要がある。

(4) デジタル科の新設（授業時数特例校の申請）

デジタル科の新設に当たっては、文部科学省の授業時数特例校制度を活用する。具体的には、各学年の年間の標準授業時数の総授業時数は維持した上で、下記のとおり、各教科の標準授業時数を下回った教育課程を編成する。

また、各学校では、特別の教育課程の内容について、保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるため、市教委が作成するリーフレット等を用いて説明を行うとともに、当該学校のウェブサイトにおいて、特別の教育課程の編成の方針等を公表する。

①小学校の授業時数

ア　第１学年及び第２学年

・国語科では、標準授業時数を３時間、算数科では、標準授業時数を２時間下回り、下回ったことによって生じた５時間をデジタル科として活用（生活科に上乗せ）。

イ　第３学年及び第４学年

・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各２時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 10 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

ウ　第５学年

・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各３時間ずつ、音楽科、図画工作科、家庭科では各１時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 18 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

エ　第６学年

・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各３時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 15 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

②中学校の授業時数

国語科、社会科、数学科、理科、外国語科、保健体育科では、標準授業時数を各３時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 18 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

令和７年度　金沢市立小・中学校の標準授業時数

【小学校】

区分	各教科											総合的な学習の時間	（デジタル科）	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	英語	道徳				
第１学年	303		134		107	68	68		102		34		(5)	34	850
第２学年	312		173		110	70	70		105		35		(5)	35	910
第３学年	243	68	173	88		60	60		103	35	35	80	(20)	35	980
第４学年	243	88	173	103		60	60		103	35	35	80	(20)	35	1015
第５学年	172	97	172	102		49	49	59	87	70	35	88	(18)	35	1015
第６学年	172	102	172	102		50	50	55	87	70	35	85	(18)	35	1015

※この表の授業時数の１単位時間は、45 分とする。

※第１・２学年の英語活動については、年間 10 単位時間のショートタイム授業を行う。

※第３～６学年の英語科については、上記授業時数に加えて年間 12 単位時間のショートタイム授業を行う。

※第１・２学年の生活科については、デジタル科の時数（内数）を含む。

※第３～６学年の総合的な学習の時間については、デジタル科の時数（内数）を含む。

【中学校】

区分	各教科										総合的な学習の時間	（デジタル科）	特別活動	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語	道徳				
第１学年	137	102	137	102	45	45	102	70	137	35	68	(18)	35	1015
第２学年	137	102	102	137	35	35	102	70	137	35	88	(18)	35	1015
第３学年	102	137	137	137	35	35	102	35	137	35	88	(18)	35	1015

※この表の授業時数の１単位時間は、50 分とする。

※第１～３学年の総合的な学習の時間については、デジタル科の時数（内数）を含む。

③デジタル科の内容及び授業時数の主な内訳

ア　プログラミング学習

（例）・ロボット操作を中心とした学習
・生活や地域の課題を解決するロボットアイディアコンテスト
・プログラミングによるアニメーション作成　など

イ　データ活用探究学習

（例）・ふるさと学習におけるデータ活用
・学校生活に関わる課題や地域課題、地球規模的課題について、データを基に解決する学習
・情報Ｉにつながる学習　など

ウ　デジタル・シティズンシップ（Ｄ・Ｃ）教育の充実

（例）・９年間を見通した連続性のある情報モラル・情報セキュリティ教育　など

エ　先端技術体験

（例）・大学や企業等との連携による出前授業や見学　など

			小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
デジタル科	総時数		5	5	20	20	18	18	18	18	18
	内訳	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	4	4	13	13	10	10			
		データ活用			4	4	5	5	10	10	15
		Ｄ・Ｃ教育	1	1	3	3	3	3	3	3	3
		先端技術							5	5	

④デジタル科の運用

教務主任等が中心となり、年間指導計画一覧表や週の予定にデジタル科を位置付け、実施状況を把握する。小学校においては、担任が複数の教科を担当していることを生かし、柔軟に時間割を運用する。その際、学級間で学習進度や内容に差が生じないように留意する。また、中学校においては、教科担任制であるため、教科に偏りが生じないように留意し、デジタル科を位置付ける。

（例）【年間指導計画一覧表】

月週数	４月	2	５月	3
総合的な学習の時間	○○○○○○○	4	○○○○○○○○	9
デジタル科	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ･ｼﾃｨｽﾞﾝｼｯﾌﾟ	1	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ（ﾛﾎﾞｯﾄ操作）	4

【小学校】
・プログラミング学習については、学年で内容や時期を合わせて計画的に実施
・データ活用探究学習については、ふるさと学習の教育課程に基づき、総合的な学習の時間に実施
・デジタル・シティズンシップ教育の充実を図る学習については、学校全体で新学期の第１週に実施する等、期間を決めて計画的に実施

【中学校】
・データ活用探究学習については、各学校で学習に取り組む期間や時間を設定し、学年で合わせて計画的に実施
・デジタル・シティズンシップ教育の充実を図る学習については、学校全体で新学期の第１週に実施する等、期間を決めて計画的に実施
・先端技術体験は、企業や大学等と連携しながら、事前事後学習を含め、午前及び午後のまとまった時間で実施

(5) 支援体制

デジタル科の実践に当たって、教育委員会が、授業では、技術面の支援をできるよう各学校に ICT 支援員を派遣したり、先端技術の体験学習等では、大学や企業の協力を得たりして実施できるよう努める必要がある。

次期金沢型学校教育モデル構築会議設置要綱及び構築委員

(1) 次期金沢型学校教育モデル構築会議設置要綱

（目的及び設置）

第１条　金沢市教育委員会は、次期金沢型学校教育モデル（仮称）を構築することを目的として、「次期金沢型学校教育モデル構築会議」（以下「構築会議」という。）を設置する。

（構築会議の役割）

第２条　構築会議は、金沢市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次期金沢型学校教育モデル（仮称）に関する事項を審議し、答申する。

（組　織）

第３条　委員は、委員 15 人以内で組織する。

２　委員は、知識経験を有する者、関係団体を代表する者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

（委員の任期）

第４条　委員の任期は、委嘱又は任命の日から令和６年 12 月 31 日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　構築会議に委員長を置き、委員の互選によりこれを選任する。

２　委員長は、構築会議を代表し、会務を総理する。

３　委員長に事故があるときには、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会　議）

第６条　構築会議は、委員長が必要に応じて召集し、委員長が議長となる。

２　構築会議は、委員の半数以上が出席しなければ開催することができない。

３　委員長は、必要があると認めるときは、議事に関係のある者の出席を求め、意見又は説明を求めることができる。

（庶　務）

第７条　構築会議の庶務は、学校指導課において処理する。

（その他）

第８条　この要綱に定めるもののほか、構築会議の運営に関する必要な事項は、委員長が別に定める。

附　則

１　この要綱は、令和５年５月 31 日から施行する。

２　この要綱は、令和６年 12 月 31 日限り、その効力を失う。

(2) 次期金沢型学校教育モデル構築会議　委員名簿

学識経験者・有識者	金沢大学　人間社会研究域学校教育系　教授	◎大　谷　　実
	金沢大学　人間社会研究域学校教育系　教授	折　川　　司
	金沢工業大学　工学部情報工学科　教授	河　並　　崇
	一般社団法人　アルバ・エデュ　代表理事	竹　内　明日香
	日本大学　文理学部　教授	藤　平　　敦
経済・文化関係者	株式会社能作　代表取締役会長 （元）金沢市教育委員	岡　　能　久
	石川県情報システム工業会副会長 株式会社 PFU　取締役　執行役員常務	宮　内　康　範
	コマツ石川株式会社　代表取締役社長 （元）金沢市教育委員	米　井　裕　一
保護者・地域関係者	金沢市ＰＴＡ協議会　副会長	鶴　山　雄　一
	金沢市子ども会連合会　副会長	北　側　美恵子
学校関係者	金沢市立伏見台小学校　校長	山　岸　朋　子
	金沢市立米泉小学校　教頭	坪　内　真　弓
	金沢市立高岡中学校　校長	田　中　一　宏
	金沢市立犀生中学校　教頭	皆　川　美都子
	金沢市立工業高等学校　教頭	中　田　智　晴

◎は委員長

（別紙）

参　考　資　料

金沢型学校教育モデルに係る意識調査概要及び集計結果

１　調査概要

(1) 調査対象　　学校長　市立小・中学校長　75 人

(2) 調査方法　　アンケート調査　【学校長対象】
「金沢型学校教育モデルの成果と課題に関する意識調査」（記述回答式）

(3) 配付・回収　Google フォームにより配付・回収

(4) 実施時期　　令和５年４月１２日（水）～５月２日（火）

２　配付及び回収結果

区　分	配付数	回収数	回収率
学校長	75	75	100.0%

３　集計結果

・ 金沢型学校教育モデルの成果と課題に関する意識調査【学校長対象】集計結果（Ｐ．２～７）

金沢型学校教育モデルの成果と課題に関する意識調査【学校長対象】集計結果

1ー1　金沢型学習プログラムについて

金沢市立全小・中学校より回答（小学校51校、中学校24校）
※中央小、長町中は芳斎分校を内川中、芝原中、医王山中は内川小、湯涌小、医王山小学校も踏まえて回答
※各学校それぞれ成果と課題を1つずつ回答しているが、複数項目にまたがる場合もあるため、校数とは合致しない

＜成果＞　（校数）

1　金沢ベーシックカリキュラムに関する内容

	小学校	中学校	計
(1) どの学校でも同じカリキュラムがベースにあり、統一感のとれた学習を展開できること	18	13	31
(2) 知・徳・体の調和が図られたカリキュラムをベースに、地域の特色や現状の課題が反映されており、指導の重点が明確で、計画的に実践できること	23	5	28
(3) 教師の教育課程編成の負担が減り、学習のねらい等を把握して学習計画を立案できること	13	4	17
(4) どの時期にどの単元を実施すればよいか指標になり、確実な履修となっていること	5	2	7
(5) 経験年数の浅い教職員でも学びの質を担保できること	1	1	2
(6)「特色ある学習内容」が授業者の指導の参考になっていること	2	0	2
(7) 地域や金沢への愛着や誇りをもつことにつながること	2	0	2

2　金沢ふるさと学習に関する内容

(1) 地域の特色や人材等、地域資源を生かすことで、金沢への愛着や誇り、将来への町づくりや世界に向けた意識が育っていること	19	9	28
(2) 各学年のテーマがあることで、地域とのつながりから、ふるさと金沢の愛着と誇りをもてる取組が実施されていること	16	6	22
(3) 金沢の魅力を知り、興味や驚きをもちながら深く学習するよい機会になっていること	13	5	18
(4) 各種資料や見学・体験・交流の機会を通して、地域の良さを実感し、特色を自分の言葉で語ることができるようになってきていること	4	3	7
(5) 学習の目的や学習の流れが明確で授業が組み立てやすいこと	2	0	2
(6) 探究的な学習の中で、資質・能力を身に付け、成果を交流する機会が良い刺激となっていること	1	0	1
(7) 各学年で扱う題材が明確で、他教科と関連させて取り組みやすく学習効果が高いこと	1	0	1

3　金沢「絆」活動に関する内容

(1) 小・中学校の共通した取組や小中連携のよい機会となり、主体的に取り組む姿が見られたこと	18	13	31
(2) 様々な学校との交流が生まれ、よい刺激となり、活動や意識が向上していること	13	4	17
(3)「金沢かがやき宣言」に基づいたテーマを共通実践することで、意識の向上につながっていること	9	4	13
(4) 社会とつながっていることを意識し、地域の方々とのつながりを強化できること	5	1	6
(5) 過去のことを振り返り、体験活動を通し価値づけることで、自己有用感の向上につながっていること	3	0	3
(6) オンライン会議を取り入れたことで、多くの児童生徒が自分事として考えるようになったこと	1	0	1

4　その他

(1) 実態を踏まえた指導の重点がカリキュラムに反映され、指導事項が明確であり、教員の指針になっていること	3	3	6

金沢型学校教育モデルの成果と課題に関する意識調査【学校長対象】集計結果

1ー2　金沢型学習プログラムについて

金沢市立全小・中学校より回答（小学校51校、中学校24校）
※中央小、長町中は芳斎分校を内川中、芝原中、医王山中は内川小、湯涌小、医王山小学校も踏まえて回答
※各学校それぞれ成果と課題を1つずつ回答しているが、複数項目にまたがる場合もあるため、校数とは合致しない

＜課題＞

（校数）

1　金沢ベーシックカリキュラムに関する内容

	小学校	中学校	計
(1) 学校の特色や教員の考えを出しにくく、カリキュラムマネジメントの必要性を感じること	12	9	21
(2) 学力調査結果等の実態や改善を踏まえた取組が難しいこと	5	6	11
(3) 教材と向き合い、創意工夫を凝らした授業実践する力をつける機会が欠けること	8	3	11
(4) 既習や他教科、幼保小中との関連の確認や健康教育での保護者との連携が難しいこと	7	0	7
(5) 学習に取り組む時期が金沢の気候や風土に合わない場合があること	2	0	2
(6) 経験年数の浅い教員によっては、評価規準の具体の姿の見取りが曖昧であること	1	0	1

2　金沢ふるさと学習に関する内容

(1) 小学校と中学校の内容に重複があったり、地域の特色や人材が不足したりするため、ねらいの達成が難しいこと	20	19	39
(2) 金沢の課題を見つけ、自分なりの提案を考え伝えるなど取組の充実を図ること	5	5	10
(3) 体験活動や交流、成果発表を重視したいが、準備の時間等と働き方改革の両立を図ること	9	0	9
(4) ふるさと学習をSDGsやキャリア教育の視点で教育課程を編成し、授業実践を行うこと	5	1	6
(5) コロナ禍の中で、地域の方との交流や活動等が制限され、取組が難しかったこと	2	1	3
(6) 金沢の情報がタイムリーに更新されないこと	0	1	1

3　金沢「絆」活動に関する内容

(1) 感染症対策や天候不良、教員の多忙化により活動が制限され、金沢「絆」活動本来の目的や意図が薄れてきていること	22	9	31
(2) 一部の児童生徒の取組となり、主体性に欠け、活動が単発や形式的になっていること	10	6	16
(3)小中連携や地域・保護者との連携のための日程調整の効率化を図ること	8	2	10
(4) 活動がマンネリ化しないよう、絆会議から絆プロジェクトへの流れを確立したり、取組の成果を実感したりできるような工夫が必要であること	7	1	8
(5)「金沢かがやき宣言」のテーマを校区ごとに主体的に選択し、継続的な取組を図ること	1	2	3
(6) 中学校の負担が大きく校区間で差が見られること	2	1	3

4　その他

(1) 金沢ふるさと学習や金沢「絆」活動を整理し、SDGsの視点など新しい時代が求めている学び方に着手する必要があること	2	3	5
(2) さらに金沢への愛着や誇りが深まるよう、外部講師を斡旋し、紹介する機関があるとよいこと	5	0	5
(3) 簡潔な取組にしないと効果が薄れてしまうこと	1	0	1
(4) 活動の時間と教員の負担との兼ね合いに苦慮すること	1	0	1

金沢型学校教育モデルの成果と課題に関する意識調査【学校長対象】集計結果

2ー1　金沢型学習スタイルについて

金沢市立全小・中学校より回答（小学校51校、中学校24校）
※中央小、長町中は芳斎分校を内川中、芝原中、医王山中は内川小、湯涌小、医王山小学校も踏まえて回答
※各学校がそれぞれ最大3つまで成果と課題を記述回答

＜成果＞　（校数）

1 金沢型学習スタイルに関する内容

	小学校	中学校	計
(1) 主体的・対話的で深い学びを目指した授業構成を考えやすく、若手教員も含めて、金沢型学習スタイルをベースに授業力向上や学力向上に取り組めること	42	19	61
(2) 問題解決的な学習の流れが教師にも児童生徒にも定着していること	20	4	24
(3) 主体的・対話的で深い学びを目指した学習を展開していくため、金沢型学習スタイルを基盤として学校研究を推進したことで、児童生徒の関わりや表出の機会が増え、多面的、多角的な見方・考え方の気づきにつながったこと	8	5	13
(4) 学校間差がなくなり、どの学校に行っても同じように授業を展開できること	6	0	6
(5) 各教科の教員用解説資料が授業づくりや個々に対する手立ての参考になっていること	3	1	4
(6) ICT版金沢型学習スタイルを基に、授業での具体的な活動や児童生徒の姿を意識すること	3	0	3
(7) 全市で共通した取組のため、授業参観や研究会などでの視点がはっきりしていること	3	0	3
(8) 型に沿った内容とすることで、記録や好事例が具体化し、指導法が学びやすいこと	1	0	1
(9) 小から中への移行がスムーズに行われること	0	1	1

2 その他

(1) 学習内容だけでなく、どのように学ぶかという方法が具体的に示されており、金沢型学習スタイルがあることで、指導しやすく、主体的・対話的な学びは定着しつつあるため、全市で確実に実践していくとよい	3	2	5
(2) ICTの活用により、授業スタイルが一変し、視覚資料教材が豊かになったことで、学習理解力が高まった	1	0	1

2ー2　金沢型学習スタイルについて

金沢市立全小・中学校より回答（小学校51校、中学校24校）
※中央小、長町中は芳斎分校を内川中、芝原中、医王山中は内川小、湯涌小、医王山小学校も踏まえて回答
※各学校がそれぞれ最大3つまで成果と課題を記述回答

＜課題＞　（校数）

1 金沢型学習スタイルに関する内容

	小学校	中学校	計
(1) 型にとらわれると、教師主導でパターン化した授業となり、児童生徒の主体性を引き出すことや、終末段階での児童生徒の見取りや深い学びが十分でないこと	22	11	33
(2) タイムマネジメントを意識しすぎて「こなす授業」になり、単元の目標や児童の実態を考慮しない授業展開となるため、児童生徒の思考に沿い、見取りながら指導に生かすなど、さらなる柔軟な授業構成の工夫を図ること	15	4	19
(3) 学習内容や実技教科の特性によっては、金沢型学習スタイルで授業を進めるのが難しく、個別最適な学びや1人1台端末活用の視点で金沢型学習スタイルを検討する必要があること	7	4	11
(4) 金沢型学習スタイルの定着やICTの活用について教員間差があり、ICTの活用を小中連携のもと効果的につなげていく必要があること	6	4	10
(5) 授業は成立し、理解していると感じるが、力がついているとは言い切れないこと	3	0	3
(6) 学習スタイルの手立てを簡潔明瞭にし、「家庭学習もがんばります」がもっと具体的になるとよいこと	2	0	2
(7) 小学校と中学校の学習スタイルの違いが中学校1年生に影響を与えること	1	0	1
(8) 金沢型学習スタイルの映像資料の活用を図ること	0	1	1

2 その他

(1)若手教員を中心に金沢型学習スタイルの考えを深める取組や、ICT版金沢型学習スタイルを意識し、効果的な場面において取り入れるなど授業改善を行いたい	2	2	4
(2) 市町間異動により県との違いを把握するのに戸惑う教員も見られ、学校訪問を通して、学力向上の視点や個別最適な学びでのスタイルの活用について助言してもらいたい	2	0	2
(3)「自分で考えます」の内容の充実・重点化が必要である	1	0	1
(4) 自分の考えを持たず話し合いに突入することが悪いことだという考えが割と多い	0	1	1

金沢型学校教育モデルの成果と課題に関する意識調査【学校長対象】集計結果

3―1　金沢型小中一貫教育について

金沢市立全小・中学校より回答（小学校51校、中学校24校）
※中央小、長町中は芳斎分校を内川中、芝原中、医王山中は内川小、湯涌小、医王山小学校も踏まえて回答
※各学校それぞれ成果と課題を1つずつ回答しているが、複数項目にまたがる場合もあるため、校数とは合致しない

＜成果＞　（校数）

1 金沢型小中一貫教育に関する内容

	小学校	中学校	計
(1) 情報を共有しやすく、先を見据え、小・中学校で学習規律や家庭学習等、一貫した共通の指導ができること	20	11	31
(2) 小・中学校でどんな力をつけていくか、授業参観等で明確にすることにより、9年間が連続性・系統性のある教育活動である意識が高まり、よい機会となっていること	16	7	23
(3) 生徒指導面で協力体制がとれていることから、小学校6年生と中学校1年生の接続がスムーズで、土台がそろったり、不安感を減らしたりしていること	10	4	14
(4) 必要感のある共通実践ができた時は、児童生徒ともに学びを深めることができたこと	3	0	3
(5) 中学校区での情報交換や共通実践を通して、保護者や地域の理解を得られやすく地域全体の教育力が向上すること	2	0	2

2 その他

(1) 小・中学校ともに、児童生徒を9年間で育てていく意識がとても大切であり、小・中学校の教員が、一緒に教育について協議する機会を充実させていきたい	3	2	5

金沢型学校教育モデルの成果と課題に関する意識調査【学校長対象】集計結果

3ー1　金沢型小中一貫教育について

金沢市立全小・中学校より回答（小学校51校、中学校24校）
※中央小、長町中は芳斎分校を内川中、芝原中、医王山中は内川小、湯涌小、医王山小学校も踏まえて回答
※各学校それぞれ成果と課題を1つずつ回答しているが、複数項目にまたがる場合もあるため、校数とは合致しない

＜課題＞　（校数）

1 金沢型小中一貫教育に関する内容

	小学校	中学校	計
(1) 授業参観等の日程や時間調整が難しいこと	14	7	21
(2) 校区によって意識の差が大きく、目的や必要感がない場合、担当者会が形骸化し、多忙感につながること	11	6	17
(3) コロナ禍の中、交流の機会が減っており、9年間を見通した教育活動を行うという意識がもちにくいこと	11	4	15
(4) 学力調査結果や校区のよさを生かした授業スタイルの共通実践を図るために、授業内容や指導法など効果的な交流や情報交流の在り方を考える必要があること	9	6	15
(5) 発達段階や学校規模によって、そろえることと、独自で取り組むことの精選が難しく、いい意味での中学校のよさが薄まること	3	1	4

2 その他

(1) 地域の特色を把握し、具体的な目標や内容を明確にして実施することも大切である	3	3	6
(2) 中学校との連携だけでなく、小・小連携等児童生徒の交流がさらに充実するとよい	1	1	2
(3) 小中一貫について、校長、教務、研究、生徒指導、事務はつながっているが、中学校や教頭がもっと関わらなくてはいけない	1	1	2
(4) ここ数年尻すぼみになっていると感じているが、コロナ禍の出口をどのように取り組んだらいいか難しく、小中連携が時間的にしんどく負担になっている	2	0	2
(5) 校種の異動を増やすと相乗効果が出るかもしれない	0	1	1

新金沢型学校教育モデルで育成する資質・能力

新しい価値や最適解を見出す

創造力

IoT やビックデータ、AI 等の技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、国全体のデジタル化の取組が進む中、教育分野においても GIGA スクール構想をはじめ、デジタル技術の効果的活用を図ることが期待されています。

一方で、AI がいかに進化しようとも、人間は、自ら課題を設定し、その課題に応じて必要な情報を基に、深く理解して自分の考えをまとめたり、表現を工夫したり、多様な他者と協働しながら目的に応じて粘り強く新しい価値や最適解を見出したりすることができる強みがあります。

時間・空間・世代を超えてつながったり、定められた手続きを効率的にこなしたりできるデジタルの利点と、歴史・伝統文化・自然等に触れるなど、児童生徒が感性を豊かに働かせることができる金沢の利点とを融合しながら、新しい時代が求める「創造力」を育みます。

新しい価値や最適解を見出す過程で見られる子どもの姿

- 課題を見つける
- 解決に向けて深く考える
- 他者と協力して活動する
- 感性豊かに表現する
- 粘り強く挑戦する

何を学ぶか 金沢ベーシックカリキュラム

- デジタル科＋教科のＤタイムの設定
- 各教科の教育課程＋教科のＲタイムの設定
- 金沢ふるさと学習等＋教科のＣタイムの設定

どのように学ぶか 金沢探究スタイル

- 探究的な活動の充実
- デジタルとリアルの往還
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

何ができるようになったか 金沢リフレクション

- デジタル力の振り返り
- 読解力の振り返り
- コミュニケーション力の振り返り

何を学ぶか　新しい時代に対応する力を育む　金沢ベーシックカリキュラム

目　的

●「創造力」を育むために、基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の育成を重点とした学習内容を示すことで、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にすることを目的とします。

デジタル力の育成
デジタル科＋教科のDタイムの設定

1　概要

発展的プログラミング学習や先端技術を学習することに加え、重点的に情報活用能力を育成するＤ（デジタル）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2　具体的な内容

デジタル科の新設

●プログラミング教育ベーシックカリキュラム（第二版）を改訂した発展的プログラミング学習やデータ活用探究学習等を新たに実施
●デジタル・シティズンシップ教育の充実

教育課程を「デジタル力」育成の視点で編成

●情報活用能力体系表の改訂
●各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「デジタル力」育成の視点で編成し、学期に１回、小学校は 10 教科、中学校は９教科で「Ｄタイム」を位置付け

ICT 活用の充実

●ICT の日常的な活用
●ICT の効果的な活用

読解力の育成
各教科の教育課程＋教科のRタイムの設定

1　概要

知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成に加え、重点的に読解力を育成するＲ（読解）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2　具体的な内容

教育課程を「読解力」育成の視点で編成

●各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「読解力」育成の視点で編成し、「Ｒタイム」として位置付け

資料・新聞等の活用

●文章・図表・動画等の幅広い情報を基に、自分の考えを整理し、文と文のつながりに着目して、まとまりのある文章を書くなどの表現活動の充実
●複数の資料の関連付け、考えの形成、再構築
（例）
・新聞・書籍の活用（電子版を含む）
・インターネット等から情報収集、分析し、考察したことを基にディベートの実施
・全国学力・学習状況調査の活用

読書活動の充実

●授業のねらいに沿った学校図書館の活用の推進
●読書の質の向上に向けた取組
●デジタル資料と図書資料の利点の融合

コミュニケーション力の育成
金沢ふるさと学習等＋教科のCタイムの設定

1　概要

金沢ふるさと学習と豊かな体験活動を通して、感性を磨くことに加え、重点的にコミュニケーション力を育成するＣ（コミュニケーション）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2　具体的な内容

教育課程を「コミュニケーション力」育成の視点で編成

●各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを対話やプレゼンテーション能力を意識した「コミュニケーション力」育成の視点で編成し、「Ｃタイム」として位置付け
（例）
・算数科・数学科で、データの分析結果をプレゼン
・英語科で、調べた国の情報を英語でプレゼン

金沢ふるさと学習の充実

●金沢ふるさと学習を SDGs や G7 教育大臣会合「富山・金沢宣言」の視点で改訂

体験活動の充実

●伝統文化・工芸、歴史的建造物等に触れる活動
●音楽、美術、劇等の本物に触れる活動
●多様な価値観・文化に触れる国際理解教育

どのように学ぶか　自ら問い、自ら行う　金沢探究スタイル

目　的

●金沢型学習スタイル（ICT 版を含む）とデジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、「創造力」を育成することを目的とします。

1　概要

○デジタルとリアルの往還、個別最適で協働的な学びの一体的充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びを通して、各教科等の資質・能力を育成する。
○教科の学習をはじめ、学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題などを自分のこととして受け止め、多様な他者と協働するなど、解決に向けた活動の充実を図る。

2　具体的な方法

金沢探究スタイル

◎自分はどう思うか、自分はどうしたいか、自分に何ができるかを考える。

●ICT を効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習の充実を図る。
●自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、多様な他者と協働的に学んだりしながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
●探究的な活動や体験活動を通じ、課題を自分のこととして受け止め、多様な他者と協働しながら各教科等の資質・能力の育成を図る。

デジタルで学ぶ　**デジタルとリアルの往還**　**リアルで感性を磨く**

様々な場面で、デジタルとリアルを使い分けたり、組み合わせたりしながら、教科の内容と日常生活を関連付けたり、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせたり、自分のこととして捉え考えたりする学習を行う

個別最適な学び

課題設定、情報の検索、データの処理や視覚化、レポート作成等で ICT を効果的に活用し、個々が選んだ方法を用いて課題を解決する
（例）
・課題設定（電子新聞・電子書籍の活用等）
・整理・分析（統計的手法、思考ツールの活用等）

協働的な学び

時間的・空間的制約を超えて音声・画像・データ等を送受信し、多様な人たちと、異なる視点で情報共有を図ることで、考えを広げ、深める
（例）
・ICT で共同編集する
・多様な意見を共有しつつ、合意形成を図る
・デジタルで国内外へ発信する

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

地域での体験活動や各分野の専門家との交流を通して、互いの考え方や感性を刺激し合い、個々が選んだ方法を用いて発見した課題を解決する
（例）
・情報収集（体験活動、図書館、アンケート等）
・まとめ・表現（パネルディスカッション等）

様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできる実感をもつことを繰り返すことで、主体的に学びに向かい、学んだことを生かす
（例）
・学校、地域・企業等、社会に向けての報告

金沢型学習スタイル・ICT 版金沢型学習スタイル

探究的な活動の充実

まとめ・表現
・相手意識や目的意識をもったまとめ・表現、考えの再構築を図る工夫
（例）ICT の活用、制作活動　等

整理・分析
・情報の比較分類、関連付けを図る工夫
（例）ICT や発達段階に応じた思考ツールの活用　等

情報収集
・各教科の見方・考え方を働かせた情報収集、情報の蓄積を図る工夫
（例）実験・観察、追体験　等

課題設定
・目標に基づいた課題設定
・学習対象への興味・関心に基づいた課題設定
・リフレクションに基づいた課題設定
（例）前時との比較、体験活動、理想と現実のずれ　等

順番が前後したり、1 つの活動の中に、複数のプロセスが一体化して同時に行われたり、何度も繰り返したりすることがある。

何ができるようになったか　学びの成長を自覚する　金沢リフレクション

目　的　●何を学ぶかを示した「金沢ベーシックカリキュラム」、どのように学ぶかを示した「金沢探究スタイル」、土台となる金沢独自の小中一貫教育により、児童生徒がデジタル力・読解力・コミュニケーション力について、身に付けることができたかを振り返ることを目的とします。

1　デジタル力・読解力・コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿

デジタル力

「主体的にデジタル社会と関わる姿」
- 日常的に ICT を活用する
- 課題設定、情報収集、整理分析、表現・まとめを行う探究的な活動で ICT を効果的に活用する
- 「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画する　など

読解力

「学び続けるための土台を身に付けた姿」
- 文章、図表、動画等から情報を収集、整理・分析する
- 情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるか読み取る
- 他者の思いを読み取る　など

コミュニケーション力

「他者を尊重し自分の意思を伝える姿」
- ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりする
- 自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりしながら探究的な活動に取り組む
- 相手や目的に応じて、分かりやすくプレゼンする　など

2　児童生徒が学びの成長を自覚するための場の設定・資料の活用

各教科等

●ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
●Ｄタイムで学びを自覚する自己評価

全国学力・学習状況調査等

●児童生徒質問紙
- PC、タブレットなどの ICT 機器の使用頻度
- PC、タブレットを活用することの有用性

●学校評価
- 学校評価計画に重点目標、デジタル力を観点とした評価項目・指標の明記

●市内統一の調査
- 学期毎に１人１台学習用端末を活用した調査

情報活用能力検定

（例）
- 情報活用能力体系表（文科省）に基づく、情報活用能力調査の実施（小 6、中 2）

ロボットコンテスト等

（例）
- 校内ロボットコンテストの実施
- 大学等主催のプログラミング大会に参加（希望者）など

各教科等

●ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
●Ｒタイムで学びを自覚する自己評価

全国学力・学習状況調査等

●国語の「読むこと」「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」のうち、根拠を基に深く考えることに適した問題

●児童生徒質問紙
◇読書活動に関すること
- 授業時間以外の読書時間
- 図書館の利用頻度

●学校評価
- 学校評価計画に重点目標、読解力を観点とした評価項目・指標の明記

●市内統一の調査
- 学期毎に１人１台学習用端末を活用した調査

読解力検定・コンクール等

（例）
- 文章を正確に理解し、利用し、熟考する調査
- NIE の取組、読書感想文、自由研究　など

各教科等

●ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
●Ｃタイムで学びを自覚する自己評価

全国学力・学習状況調査等

●児童生徒質問紙
◇話し合いに関すること
- 自分の考えを深めたり、広めたりする
- 互いの意見の良さを生かして解決方法を決める

◇地域や伝統、外国に関すること
- 地域や社会をよくするために何かしたい

●学校評価
- 学校評価計画に重点目標、コミュニケーション力を観点とした評価項目・指標の明記

●市内統一の調査
- 学期毎に１人１台学習用端末を活用した調査

フォーラム・ジュニア金沢検定等

（例）
- 金沢ふるさと学習で設定した課題の解決方法について金沢 SDGs 子どもフォーラム等で紹介
- 英語スピーチコンテストの開催（希望者）
- ジュニアかなざわ検定への参加（希望者）など

資料２

新金沢型学校教育モデル
（案）

金沢市教育委員会

目　　次

頁

１　新金沢型学校教育モデルの構築に当たって　……　１

２　新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方　……　４

３　新金沢型学校教育モデルの具体的な方向性　……　６

４　新金沢型学校教育モデル実践に当たっての留意点　……１４

（別紙）参考資料

１　新金沢型学校教育モデルの構築に当たって

(1) 構築の背景と経緯

本市では、平成 16 年度から「世界都市金沢」小中一貫英語教育、学習指導基準金沢スタンダード、学校２学期制の３つの柱からなる「学校教育金沢モデル」を推進しており、平成 21 年度からは、新たに金沢「絆」教育を加えた「第２次学校教育金沢モデル」の実践に取り組んできた。

「第２次学校教育金沢モデル」の柱の１つであった学校２学期制については、同じく２学期制を実施してきた政令市や中核市の動向も踏まえ、金沢市立小中学校学期制検討委員会を設置し、その提言（平成 25 年５月）を受けて、平成 26 年度より「学びのステップを大切にした新たな３学期制」へ移行している。

また、平成 14 年に「金沢子ども条例（子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例）」が施行され、これに基づき、大人が具体的にどのような行動をしていくべきなのかをまとめた金沢子どもを育む行動計画をはじめ、金沢市健康教育推進プラン、金沢市特別支援教育指針、金沢子ども読書推進プラン等を策定してきた。さらに、平成 27 年１月、本市学校教育の一層の振興を図るため、中長期の視点に立っためざすべき学校教育の姿や取り組むべき施策等を明らかにした「金沢市学校教育振興基本計画」を策定し、この計画に基づき、総合的な施策を実践していくこととなった。

これに伴い、「金沢市学校教育振興基本計画」の基本理念やめざすべき金沢の子ども像の実現に向けて、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化し、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進していくことが大切であると考え、平成 28 年度より、「何を学ぶか」という内容として「金沢型学習プログラム」、「どのように学ぶか」という方法として「金沢型学習スタイル」、それらを支える学びの土台として「金沢型小中一貫教育」の３つの要素で構成された「金沢型学校教育モデル」の実践に取り組んできた。

その間、「金沢市学校教育振興基本計画」の改定をはじめ、学習指導要領の改訂や GIGA スクール構想といった学校教育におけるデジタル化の急速な進展など、現行のモデル構築時とは環境が大きく変化してきた。

そのため、予測困難な変化や急速に進行する多様化に対応し、未来を創るために必要な力を身に付けることができる金沢の子どもたちを育成するため、新しい時代が求める学びの在り方を踏まえた次期金沢型学校教育モデルを構築し、本市において高い教育水準の確立をめざすこととした。

まずは、「金沢型学校教育モデル」の３つの要素（金沢型学習プログラム、金沢型学習スタイル、金沢型小中一貫教育）について検証することから始めた。検証に当たっては、市立小中学校長を対象とした意識調査を行い、その調査結果等を踏まえて、成果と課題を明らかにしていった。

(2)金沢型学校教育モデルの成果と課題

意識調査結果等を踏まえて、明らかになった金沢型学校教育モデルの成果と課題は、以下のとおりである。

①　金沢型学習プログラムの成果と課題

ア　金沢ベーシックカリキュラムについて

【成果】○金沢ベーシックカリキュラムを基準に、児童生徒の実態や地域の特色等を踏まえ、各学校の特色ある学習内容を加えることで、知・徳・体の調和のとれた学習を展開することができた。

○どの時期にどの単元を実施すればよいかの指標になり、学習のねらい等を把握して学習計画を立案し、実践することで、確実な履修を図ることができた。

【課題】・学力調査結果等の学校の実態を踏まえ、創意工夫を凝らした授業を実践するための、カリキュラムマネジメントを適切に行う必要があった。

イ　金沢ふるさと学習について

【成果】○学年テーマを基に、地域とのつながりから、ふるさと金沢の魅力を知り、興味をもったり驚きを感じたりしながら深く学習することができた。

○地域の特色や人材等、地域資源を生かすことで、金沢のまちに愛着と誇りをもったまちづくりの担い手を育むことができた。

【課題】・小学校と中学校の内容に重複があったり、地域の特色や人材が不足したりするため、自分なりの提案を考え伝えるなど取組の充実を図ることやねらいの達成が難しい場面があった。

ウ　金沢「絆」活動について

【成果】○小･中学校の共通した取組や小中連携によって､主体的に取り組む姿が見られ、様々な学校との交流が生まれることでよい刺激となり、活動の充実や意識の向上が見られた。

○「金沢子どもかがやき宣言」に基づいたテーマを共通実践することで意識の向上につながった。

【課題】・感染症対策や天候不良、教員の多忙化により活動が制限され、活動が単発や形式的になり、本来の目的や意図に応じた活動を行うことができない状況が見られた。

エ　その他

【成果】○「金沢ベーシックカリキュラム」は、実態を踏まえた指導の重点がカリキュラムに反映され、指導事項が明確で、全国に誇れる教育課程であり、教員にとっての指導の指針になった。

【課題】・金沢「絆」活動を、SDGs の視点など新しい時代に求められる資質・能力で整理し、金沢への愛着や誇りが深まるようにする必要があった。

②　金沢型学習スタイルの成果と課題

ア　金沢型学習スタイルについて

【成果】○小・中学校における基本となる学習方法や指導方法が示されているので、若手教員も金沢型学習スタイルをベースに授業を組み立てることができ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた問題解決的な学習を推進することができた。

○金沢型学習スタイルを基盤として学校研究を推進したことで、問題解決的な学習の流れが教師にも児童生徒にも定着し、児童生徒の対話が増え、深い学びにつながった。

【課題】・型にとらわれると、教師主導となり、児童生徒の主体性を引き出すことや終末段階での児童生徒の見取りや学びの深まりが十分ではなかった。

イ　その他

【成果】○金沢型学習スタイルがあることで指導しやすく、主体的・対話的な学習への意識は定着してきたことから、引き続き全市で確実に取り組めるとよい。

【課題】・金沢型学習スタイルにおける考えを深める取組や、ICT 版金沢型学習スタイルを意識し、効果的な場面において１人１台学習用端末を取り入れることが必要であった。

③　金沢型小中一貫教育の成果と課題

ア　金沢型小中一貫教育について

【成果】○小・中学校での教員相互の授業参観等でどんな力をつけたいのかが明確となり小・中学校で学習規律や家庭学習等９年間を見通した連続性のある教育活動を展開することができた。

○校区の実情や児童生徒の実態に応じた小中連携を推進したことで、小学校６年生と中学校１年生の接続がスムーズになり、児童生徒の不安感を減らすことができた。

【課題】・小・中学校での教員相互の授業参観等の日程調整が難しく、特にコロナ禍においては、９年間を見通した教育活動を行う意識が希薄になり、より効果的な交流の在り方を考える必要があった。

イ　その他

【成果】○小・中学校ともに、９年間を見通して「学び」と「育ち」をつなげることが大切であり、小・中学校の教員が、一緒に教育について協議する機会を充実させることができた。

【課題】・地域の特色を把握し、具体的な目標や内容を明確にして実施することも大切であった。

２　新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方

IoT やビッグデータ、AI 等の技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、国全体のデジタル化の取組が進む中、教育分野においても GIGA スクール構想をはじめ、デジタル技術の効果的活用を図ることが期待されている。一方で、AI がいかに進化しようとも、人間は、自ら課題を設定し、その課題に応じて必要な情報を基に、深く理解して自分の考えをまとめたり、表現を工夫したり、多様な他者と協働しながら目的に応じて粘り強く新しい価値や最適解を見出したりすることができる強みがある。

金沢市学校教育振興基本計画では、「明日を拓き　社会を担う　金沢発のひとづくり　～『心』と『力』を育む学校教育～」を基本理念に掲げ、この中で、「児童生徒には、時代の変化に対応するための多様な能力を備えることが強く求められていること」「多くの仲間や教員との交流を通して、明日を切り拓くために大切な『心』と『力』を身に付けることが必要であること」が明記されている。

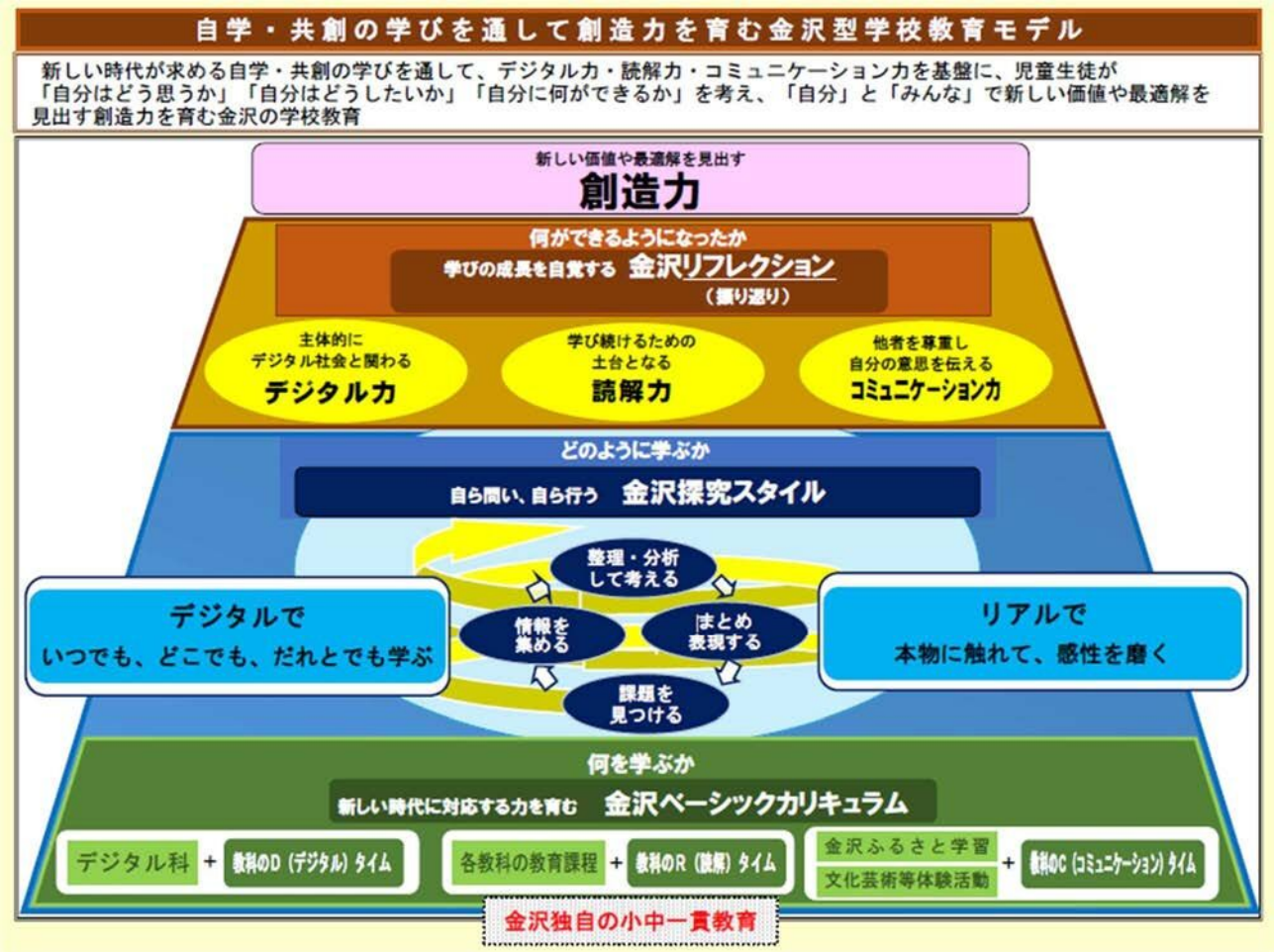
この基本理念と金沢型学校教育モデル（ICT 版を含む）の検証結果を踏まえ、新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、主体的にデジタル社会と関わる「デジタル力」、学び続けるための土台となる「読解力」、他者を尊重し自分の意思を伝える「コミュニケーション力」の３つの力を基盤に、児童生徒が「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考え、「自分」と「みんな」で新しい価値や最適解を見出す「創造力」を育む新たな学校教育モデルとして「新金沢型学校教育モデル」を構築し、金沢市学校教育振興基本計画において掲げている豊かな「心」と多様な「力」を備えた「めざすべき金沢の子ども像」の実現を図っていく。

「新金沢型学校教育モデル」は、児童生徒が「何を学ぶか」として新しい時代に対応する力を育む「金沢ベーシックカリキュラム」、「どのように学ぶか」として、自ら問い、自ら行う「金沢探究スタイル」、「何ができるようになったか」として児童生徒が学びの成長を自覚する「金沢リフレクション（振り返り）」の３つの要素で構成される。

金沢は、未来を拓く世界の共創文化都市を目指し、伝統を守りながら、多様な人達が立場や世代を超えてつながり合い、新たな価値を創造し、持続可能な発展を続ける社会の実現に向けて取り組んでいるまちである。「新金沢型学校教育モデル」においても、時間・空間・世代を超えてつながることができるデジタルの利点と、歴史・伝統文化・自然等に触れ、感性を豊かに働かせることができる金沢の利点とを融合しながら、探究的な学びを通して、新しい時代が求める「創造力」を育んでいく。

また、中学校区における小中連携を引き続き推進する「金沢独自の小中一貫教育」により、９年間を見通した連続性のある教育活動を展開し、児童生徒の学びと育ちをつなげていく。

体系図



新しい価値や最適解を見出す過程で見られる子どもの姿

〇課題を見つける
〇解決に向けて深く考える
〇他者と協力して活動する
〇感性豊かに表現する
〇粘り強く挑戦する

３　新金沢型学校教育モデルの具体的な方向性

新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方に基づき、具体的な方向性を以下のように示す。

(1) 金沢ベーシックカリキュラム

「金沢ベーシックカリキュラム」は、「創造力」を育むために、基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の育成を重点とした学習内容を示すことで、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にすることを目的とする。

具体的には、デジタル力の育成のために「デジタル科の新設」と「各教科の教育課程にＤ（デジタル）タイムを位置付け」、読解力の育成のために「各教科の教育課程の編成」と「各教科の教育課程にＲ（読解）タイムを位置付け」、コミュニケーション力の育成のために「金沢ふるさと学習の改訂」、「体験活動の充実」と「各教科等の教育課程にＣ（コミュニケーション）タイムを位置付け」を実施する。

① デジタル力の育成

ICT の日常的な活用を前提に、ICT の負の側面を認識しつつ、「正しく活用するために、何が求められているのか」、「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画するための力を育成する「デジタル・シティズンシップ教育」の充実を図る。

そのために、９年間を見通した連続性のあるカリキュラムを編成することに加え、重点的に情報活用能力を育成する時間を設定し、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する探究的な活動を通して、主体的にデジタル社会と関わるデジタル力の育成を図る。

ア　デジタル科の新設

プログラミング教育ベーシックカリキュラム（第二版）を改訂した発展的プログラミング学習やデータ活用探究学習等を実施したり、デジタル・シティズンシップ教育の充実を図ったりするデジタル科を新設する。

イ　教育課程を「デジタル力」の育成の視点で編成

情報活用能力体系表を改訂し、各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「デジタル力」育成の視点で編成し、「Ｄタイム」として位置付ける。

ウ　ICT 活用の充実

各教科等で日常的に１人１台学習用端末を活用し、デジタルを活用した探究的な活動に取り組む。

② 読解力の育成

各教科等において、文章・図表・動画等から情報を収集、整理・分析したり、情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるかを読み取ったり、他者の思いを読み取ったりすることなどを通して、学び続けるための土台となる読解力の育成を図る。

ア　教育課程を「読解力」育成の視点で編成

各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「読解力」育成の視点で編成し、「Ｒタイム」として位置付ける。

イ　資料・新聞等の活用

文章、図表、動画等の幅広い情報を基に、自分の考えを整理し、文と文のつながりに着目して、まとまりのある文章を書くなどの表現活動の充実を図ることに加え、複数の資料を関連付け、考えを形成したり再構築したりする。

（例）・新聞、書籍の活用（電子版を含む）
　　・インターネット等から情報収集、分析し、考察したことを基にディベートの実施
　　・全国学力・学習状況調査の活用　など

ウ　読書活動の充実

授業のねらいに沿って学校図書館を活用し、デジタル資料と図書資料の利点を融合しながら、読書の質の向上に向けた取組を推進する。

③ コミュニケーション力の育成

学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題について、児童生徒が ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりしながら、自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりするなど、探究的な活動に取り組むことを通して、他者を尊重し自分の意思を伝えるコミュニケーション力の育成を図る。

ア　教育課程を「コミュニケーション力」の育成の視点で編成

各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを対話やプレゼンテーション能力を意識した「コミュニケーション力」育成の視点で編成し、「Ｃタイム」として位置付ける。

（例）・算数・数学科で、データの分析結果をプレゼン
　　・英語科・外国語科で、調べた国の情報を英語でプレゼン

イ　金沢ふるさと学習の充実

金沢ふるさと学習を SDGs、G7 教育大臣会合「富山・金沢宣言」の視点で改訂する。

ウ　体験活動の充実

伝統文化・工芸、歴史的建造物等に触れる活動、音楽、美術、劇等の本物に触れる活動、多様な価値観・文化に触れる国際理解教育の充実を図る。

（例）オーケストラ、ミュージアムクルーズ、素囃子、偉人館博物館、
宿泊体験・修学旅行、キャリア教育　など

(2) 金沢探究スタイル

「金沢探究スタイル」は、「金沢型学習スタイル（ICT 版を含む）」とデジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、「創造力」を育成することを目的とする。

具体的には、教科の学習をはじめ、学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題などを、自分のこととして受け止め、多様な他者と協働するなど、解決に向けた活動の充実を図ること、ICT を効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習を往還すること、個別最適で協働的な学びの一体的充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びを通して、各教科等の資質・能力を育成することを重視する。

① 探究的な活動の充実

本市では、これまで「金沢型学習スタイル（ICT 版を含む）」に基づき、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習、分かる・できる喜びのある学習、好ましい人間関係に基づく学習の３点を重視し、併せて１人１台学習用端末等を活用した授業改善を推進してきた。これを基盤に、探究的な活動や体験活動を通じ、課題を自分のこととして受け止め、多様な他者と協働しながら各教科等の資質・能力の育成を図ることを重視する。

そのために、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する探究的な活動の充実を図る。

ア　課題設定

児童生徒が目標に基づいて課題を設定したり、学習対象への興味・関心に基づいて課題を設定したり、リフレクションに基づいて課題を設定したりする。

（例）・前時との比較、体験活動
　　・理想と現実のずれ　など

イ　情報収集

児童生徒が各教科の見方・考え方を働かせて情報収集、情報の蓄積を図る。

（例）・実験・観察、追体験　など

ウ　整理・分析

児童生徒が情報を比較分類したり関連付けを図ったりする。

（例）・ICT や発達段階に応じた思考ツールの活用　など

エ　まとめ・表現

児童生徒が相手意識や目的意識をもったまとめ・表現をし、考えの再構築を図る。

（例）・ICT の活用、制作活動　など

② デジタルとリアルの往還

ICT を効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習の充実を図る。

具体的には、様々な場面で、デジタルとリアルを使い分けたり、組み合わせたりしながら、教科の内容と日常生活を関係付けたり、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせたり、自分のこととして捉え考えたりする学習を重視する。

③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、多様な他者と協働的に学んだりしながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

ア　デジタルを活用した個別最適な学び

課題設定、情報の検索、データの処理や視覚化、レポート作成等で ICT を効果的に活用し、個々が選んだ方法を用いて課題を解決する。

（例）・課題設定（電子新聞・電子書籍の活用等）
　　・整理分析（統計的手法、思考ツールの活用等）など

イ　デジタルを活用した協働的な学び

時間的・空間的制約を超えて音声・画像・データ等を送受信し、多様な人たちと、異なる視点で情報共有を図ることで、考えを広げ、深める。

（例）・ICT で共同編集
　　・多様な意見を共有しつつ、合意形成
　　・デジタルで国内外へ発信　など

ウ　リアルな体験を通した個別最適な学び

地域での体験活動や各分野の専門家との交流を通して、互いの考え方や感性を刺激し合い、個々が選んだ方法を用いて発見した課題を解決する。

（例）・情報収集（体験活動、図書館、アンケート等）
　　・まとめ・表現（パネルディスカッション等）など

エ　リアルな体験を通した協働的な学び

様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできる実感をもつことを繰り返すことで、主体的に学びに向かい、学んだことを生かす。

（例）・学校、地域・企業等、社会に向けての報告　など

(3) 金沢リフレクション

何を学ぶかを示した「金沢ベーシックカリキュラム」、どのように学ぶかを示した「金沢探究スタイル」、土台となる金沢独自の小中一貫教育により、児童生徒がデジタル力・読解力・コミュニケーション力について、身に付けることができたかを振り返り、学びの成長を自覚することを目的とする。

具体的には、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿を明確にし、児童生徒が各教科等の授業の振り返りを通して、学びの成長を自覚できるようにする。また、学校等が学びをアウトプットする場を設定したり、客観的な資料を提供し、児童生徒が活用できるようにしたりする。

① デジタル力の振り返り

デジタル力を身に付けた子どもの姿

「主体的にデジタル社会と関わる姿」

◯ICT を日常的に活用する

◯課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現する探究的な活動で ICT を効果的に活用する

◯「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画する　など

ア　各教科等

・ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返りや相互評価

・Ｄタイムで学びを自覚する自己評価　など

イ　全国学力・学習状況調査等

・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙にある「PC、タブレットなどの ICT 機器の使用頻度」、「PC、タブレットを活用することの有用性」についての質問項目の活用

・学校評価の学校評価計画に重点目標、デジタル力を観点とした評価項目・指標を明記

・学期毎に１人１台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施　など

ウ　情報活用能力検定

・情報活用能力体系表（文科省）に基づく、情報活用能力調査　など

エ　ロボットコンテスト等

（例）・校内ロボットコンテストの実施

・希望者が大学等主催のプログラミング大会に参加　など

② 読解力の振り返り

読解力を身に付けた子どもの姿

「学び続けるための土台を身に付けた姿」

〇文章、図表、動画等から情報を収集、整理・分析する
〇情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるか読み取る
〇他者の思いを読み取る　など

ア　各教科等

・ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返りや相互評価
・Ｒタイムで学びを自覚する自己評価　など

イ　全国学力・学習状況調査等

・全国学力・学習状況調査の国語の「読むこと」「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」のうち、根拠を基に深く考えることに適した問題で検証
・児童生徒質問紙にある読書活動に関することの「授業時間以外の読書時間」、「図書館の利用頻度」についての質問項目の活用
・学校評価の学校評価計画に重点目標、読解力を観点とした評価項目・指標を明記
・学期毎に１人１台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施　など

ウ　読解力検定等

（例）・文章を正確に理解し、利用し、熟考する調査
　　・NIE の取組、読書感想文、自由研究　など

③ コミュニケーション力の振り返り

コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿

「他者を尊重し、自分の意思を伝える姿」

〇ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりする
〇自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりしながら探究的な活動に取り組む
〇目的や相手に応じて、分かりやすくプレゼンする　など

ア　各教科等

・ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返りや相互評価
・Ｃタイムで学びを自覚する自己評価　など

イ　全国学力・学習状況調査等

・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙にある話し合いに関することの「自分の考えを深めたり、広めたりする」「互いの意見の良さを生かして解決方法を決める」と、地域や伝統、外国に関することの「地域や社会をよくするために何かしたい」についての質問項目の活用
・学校評価の学校評価計画に重点目標、コミュニケーション力を観点とした評価項目・指標を明記
・学期毎に１人１台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施　など

ウ　フォーラム、ジュニア金沢検定等

（例）・金沢ふるさと学習で設定した課題の解決方法について、金沢 SDGs 子どもフォーラム等で紹介
・希望者が英語スピーチコンテストに参加
・希望者がジュニア金沢検定に参加　など

４　新金沢型学校教育モデル実践に当たっての留意点

新金沢型学校教育モデルの実践に当たっては、モデルに基づく教育活動が一層効果を発揮するよう、以下の点に留意する。

(1) 教職員の理解と組織的な対応

新しい価値や最適解を見出す創造力を育む、新金沢型学校教育モデルに基づく教育活動を実践するためには、全ての学校の教職員一人一人が、基本的な考え方、具体的な方向性について十分に理解し、目的意識を明確にして必要感のある取組となるよう配慮することが重要であり、そうした日々の教職員による実践の積み重ねが着実に成果につながっていくと考える。

そのために、校長を中心とした全教職員による共通理解のもと、組織的な取組となるよう工夫することが求められる。そのことは、協力・協働の学校運営につながり、教育現場の抱える問題の一つである教職員の多忙化改善の一助となると考える。

(2) 保護者・地域等への発信

新金沢型学校教育モデルについては、上記のように全ての教職員がその趣旨等について理解し、実践していくことが大切であるが、加えて、保護者や地域に発信し、十分な理解のもと、学校の教育活動への協力を得ることにより、その効果が高まることが期待される。さらに、家庭教育や地域の行事等においても、学校と同じ方向性で教育活動を行うよう連携を求めることができれば、一層の効果が期待できる。

そのために、新金沢型学校教育モデルについては、保護者や地域の方にとって、できるだけ分かりやすい表現で発信するよう工夫することが求められる。そのことは、保護者や地域の方だけでなく、児童生徒の理解にもつながり、児童生徒と教職員・保護者・地域が一体となって教育活動を推進することが可能になる。また、学校からの一方向の発信に止まらず、学校は地域の活動等を理解し、双方向に連携を図ることも大切である。

(3) 取組の検証

新金沢型学校教育モデルの実践に当たっては、具体的な取組によって、創造力を身に付けた子ども像の実現に迫ることができたかについて、検証を行っていくことが大切である。

そのために、例えば、各学校では、学校評価計画に新金沢型学校教育モデルに係る重点目標や、「金沢ベーシックカリキュラム」「金沢探究スタイル」「金沢リフレクション」を観点とした評価項目・指標を明記するなど、取組を確実に行い、成果を実感できるよう工夫することが求められる。

また、教育委員会は、学校訪問等により取組状況の把握に努めるとともに、各学校の評価結果や各種調査結果を集計・分析して、市全体として新金沢型学校教育モデルの実践状況や成果等を検証し、必要な指導や施策による支援を行う必要がある。

(4) デジタル科の新設（授業時数特例校の申請）

デジタル科の新設に当たっては、文部科学省の授業時数特例校制度を活用する。具体的には、各学年の年間の標準授業時数の総授業時数は維持した上で、下記のとおり、各教科の標準授業時数を下回った教育課程を編成する。

また、各学校では、特別の教育課程の内容について、保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるため、市教委が作成するリーフレット等を用いて説明を行うとともに、当該学校のウェブサイトにおいて、特別の教育課程の編成の方針等を公表する。

①小学校の授業時数

ア　第１学年及び第２学年

・国語科では、標準授業時数を３時間、算数科では、標準授業時数を２時間下回り、下回ったことによって生じた５時間をデジタル科として活用（生活科に上乗せ）。

イ　第３学年及び第４学年

・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各２時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 10 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

ウ　第５学年

・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各３時間ずつ、音楽科、図画工作科、家庭科では各１時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 18 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

エ　第６学年

・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各３時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 15 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

②中学校の授業時数

国語科、社会科、数学科、理科、外国語科、保健体育科では、標準授業時数を各３時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた 18 時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

令和７年度　金沢市立小・中学校の標準授業時数

【小学校】

区分	各教科											総合的な学習の時間	（デジタル科）	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	英語	道徳				
第１学年	303		134		107	68	68		102		34		(5)	34	850
第２学年	312		173		110	70	70		105		35		(5)	35	910
第３学年	243	68	173	88		60	60		103	35	35	80	(20)	35	980
第４学年	243	88	173	103		60	60		103	35	35	80	(20)	35	1015
第５学年	172	97	172	102		49	49	59	87	70	35	88	(18)	35	1015
第６学年	172	102	172	102		50	50	55	87	70	35	85	(18)	35	1015

※この表の授業時数の１単位時間は、45 分とする。

※第１・２学年の英語活動については、年間 10 単位時間のショートタイム授業を行う。

※第３～６学年の英語科については、上記授業時数に加えて年間 12 単位時間のショートタイム授業を行う。

※第１・２学年の生活科については、デジタル科の時数（内数）を含む。

※第３～６学年の総合的な学習の時間については、デジタル科の時数（内数）を含む。

【中学校】

区分	各教科										総合的な学習の時間	（デジタル科）	特別活動	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語	道徳				
第１学年	137	102	137	102	45	45	102	70	137	35	68	(18)	35	1015
第２学年	137	102	102	137	35	35	102	70	137	35	88	(18)	35	1015
第３学年	102	137	137	137	35	35	102	35	137	35	88	(18)	35	1015

※この表の授業時数の１単位時間は、50 分とする。

※第１～３学年の総合的な学習の時間については、デジタル科の時数（内数）を含む。

③デジタル科の内容及び授業時数の主な内訳

ア　プログラミング学習

（例）・ロボット操作を中心とした学習
・生活や地域の課題を解決するロボットアイディアコンテスト
・プログラミングによるアニメーション作成　など

イ　データ活用探究学習

（例）・ふるさと学習におけるデータ活用
・学校生活に関わる課題や地域課題、地球規模的課題について、データを基に解決する学習
・情報Ｉにつながる学習　など

ウ　デジタル・シティズンシップ（Ｄ・Ｃ）教育の充実

（例）・９年間を見通した連続性のある情報モラル・情報セキュリティ教育　など

エ　先端技術体験

（例）・大学や企業等との連携による出前授業や見学　など

			小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
デジタル科	総時数		5	5	20	20	18	18	18	18	18
	内訳	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	4	4	13	13	10	10			
		データ活用			4	4	5	5	10	10	15
		Ｄ・Ｃ教育	1	1	3	3	3	3	3	3	3
		先端技術							5	5	

④デジタル科の運用

教務主任等が中心となり、年間指導計画一覧表や週の予定にデジタル科を位置付け、実施状況を把握する。小学校においては、担任が複数の教科を担当していることを生かし、柔軟に時間割を運用する。その際、学級間で学習進度や内容に差が生じないように留意する。また、中学校においては、教科担任制であるため、教科に偏りが生じないように留意し、デジタル科を位置付ける。

（例）【年間指導計画一覧表】

月週数	４月	2	５月	3
総合的な学習の時間	○○○○○○○	4	○○○○○○○○	9
デジタル科	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ･ｼﾃｨｽﾞﾝｼｯﾌﾟ	1	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ（ﾛﾎﾞｯﾄ操作）	4

【小学校】
・プログラミング学習については、学年で内容や時期を合わせて計画的に実施
・データ活用探究学習については、ふるさと学習の教育課程に基づき、総合的な学習の時間に実施
・デジタル・シティズンシップ教育の充実を図る学習については、学校全体で新学期の第１週に実施する等、期間を決めて計画的に実施

【中学校】
・データ活用探究学習については、各学校で学習に取り組む期間や時間を設定し、学年で合わせて計画的に実施
・デジタル・シティズンシップ教育の充実を図る学習については、学校全体で新学期の第１週に実施する等、期間を決めて計画的に実施
・先端技術体験は、企業や大学等と連携しながら、事前事後学習を含め、午前及び午後のまとまった時間で実施

(5) 支援体制

デジタル科の実践に当たって、教育委員会が、授業では、技術面の支援をできるよう各学校に ICT 支援員を派遣したり、先端技術の体験学習等では、大学や企業の協力を得たりして実施できるよう努める必要がある。

（別紙）

参　考　資　料

新金沢型学校教育モデルで育成する資質・能力

新しい価値や最適解を見出す

創造力

IoT やビックデータ、AI 等の技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、国全体のデジタル化の取組が進む中、教育分野においても GIGA スクール構想をはじめ、デジタル技術の効果的活用を図ることが期待されています。

一方で、AI がいかに進化しようとも、人間は、自ら課題を設定し、その課題に応じて必要な情報を基に、深く理解して自分の考えをまとめたり、表現を工夫したり、多様な他者と協働しながら目的に応じて粘り強く新しい価値や最適解を見出したりすることができる強みがあります。

時間・空間・世代を超えてつながったり、定められた手続きを効率的にこなしたりできるデジタルの利点と、歴史・伝統文化・自然等に触れるなど、児童生徒が感性を豊かに働かせることができる金沢の利点とを融合しながら、新しい時代が求める「創造力」を育みます。

新しい価値や最適解を見出す過程で見られる子どもの姿

- 課題を見つける
- 解決に向けて深く考える
- 他者と協力して活動する
- 感性豊かに表現する
- 粘り強く挑戦する

何を学ぶか 金沢ベーシックカリキュラム

- デジタル科＋教科のＤタイムの設定
- 各教科の教育課程＋教科のＲタイムの設定
- 金沢ふるさと学習等＋教科のＣタイムの設定

どのように学ぶか 金沢探究スタイル

- 探究的な活動の充実
- デジタルとリアルの往還
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

何ができるようになったか 金沢リフレクション

- デジタル力の振り返り
- 読解力の振り返り
- コミュニケーション力の振り返り

何を学ぶか　新しい時代に対応する力を育む　金沢ベーシックカリキュラム

目　的

●「創造力」を育むために、基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の育成を重点とした学習内容を示すことで、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にすることを目的とします。

デジタル力の育成
デジタル科＋教科のDタイムの設定

1　概要

発展的プログラミング学習や先端技術を学習することに加え、重点的に情報活用能力を育成するＤ（デジタル）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2　具体的な内容

デジタル科の新設

●プログラミング教育ベーシックカリキュラム（第二版）を改訂した発展的プログラミング学習やデータ活用探究学習等を新たに実施
●デジタル・シティズンシップ教育の充実

教育課程を「デジタル力」育成の視点で編成

●情報活用能力体系表の改訂
●各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「デジタル力」育成の視点で編成し、学期に１回、小学校は 10 教科、中学校は９教科で「Ｄタイム」を位置付け

ICT 活用の充実

●ICT の日常的な活用
●ICT の効果的な活用

読解力の育成
各教科の教育課程＋教科のRタイムの設定

1　概要

知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成に加え、重点的に読解力を育成するＲ（読解）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2　具体的な内容

教育課程を「読解力」育成の視点で編成

●各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「読解力」育成の視点で編成し、「Ｒタイム」として位置付け

資料・新聞等の活用

●文章・図表・動画等の幅広い情報を基に、自分の考えを整理し、文と文のつながりに着目して、まとまりのある文章を書くなどの表現活動の充実
●複数の資料の関連付け、考えの形成、再構築
（例）
・新聞・書籍の活用（電子版を含む）
・インターネット等から情報収集、分析し、考察したことを基にディベートの実施
・全国学力・学習状況調査の活用

読書活動の充実

●授業のねらいに沿った学校図書館の活用の推進
●読書の質の向上に向けた取組
●デジタル資料と図書資料の利点の融合

コミュニケーション力の育成
金沢ふるさと学習等＋教科のCタイムの設定

1　概要

金沢ふるさと学習と豊かな体験活動を通して、感性を磨くことに加え、重点的にコミュニケーション力を育成するＣ（コミュニケーション）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2　具体的な内容

教育課程を「コミュニケーション力」育成の視点で編成

●各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを対話やプレゼンテーション能力を意識した「コミュニケーション力」育成の視点で編成し、「Ｃタイム」として位置付け
（例）
・算数科・数学科で、データの分析結果をプレゼン
・英語科で、調べた国の情報を英語でプレゼン

金沢ふるさと学習の充実

●金沢ふるさと学習を SDGs や G7 教育大臣会合「富山・金沢宣言」の視点で改訂

体験活動の充実

●伝統文化・工芸、歴史的建造物等に触れる活動
●音楽、美術、劇等の本物に触れる活動
●多様な価値観・文化に触れる国際理解教育

どのように学ぶか　自ら問い、自ら行う　金沢探究スタイル

目　的

●金沢型学習スタイル（ICT 版を含む）とデジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、「創造力」を育成することを目的とします。

1　概要

○デジタルとリアルの往還、個別最適で協働的な学びの一体的充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びを通して、各教科等の資質・能力を育成する。
○教科の学習をはじめ、学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題などを自分のこととして受け止め、多様な他者と協働するなど、解決に向けた活動の充実を図る。

2　具体的な方法

金沢探究スタイル

◎自分はどう思うか、自分はどうしたいか、自分に何ができるかを考える。

●ICT を効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習の充実を図る。
●自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、多様な他者と協働的に学んだりしながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
●探究的な活動や体験活動を通じ、課題を自分のこととして受け止め、多様な他者と協働しながら各教科等の資質・能力の育成を図る。

デジタルで学ぶ　**デジタルとリアルの往還**　**リアルで感性を磨く**

様々な場面で、デジタルとリアルを使い分けたり、組み合わせたりしながら、教科の内容と日常生活を関連付けたり、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせたり、自分のこととして捉え考えたりする学習を行う

個別最適な学び

課題設定、情報の検索、データの処理や視覚化、レポート作成等で ICT を効果的に活用し、個々が選んだ方法を用いて課題を解決する
（例）
・課題設定（電子新聞・電子書籍の活用等）
・整理・分析（統計的手法、思考ツールの活用等）

協働的な学び

時間的・空間的制約を超えて音声・画像・データ等を送受信し、多様な人たちと、異なる視点で情報共有を図ることで、考えを広げ、深める
（例）
・ICT で共同編集する
・多様な意見を共有しつつ、合意形成を図る
・デジタルで国内外へ発信する

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

地域での体験活動や各分野の専門家との交流を通して、互いの考え方や感性を刺激し合い、個々が選んだ方法を用いて発見した課題を解決する
（例）
・情報収集（体験活動、図書館、アンケート等）
・まとめ・表現（パネルディスカッション等）

様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできる実感をもつことを繰り返すことで、主体的に学びに向かい、学んだことを生かす
（例）
・学校、地域・企業等、社会に向けての報告

金沢型学習スタイル・ICT 版金沢型学習スタイル

探究的な活動の充実

まとめ・表現
・相手意識や目的意識をもったまとめ・表現、考えの再構築を図る工夫
（例）ICT の活用、制作活動　等

整理・分析
・情報の比較分類、関連付けを図る工夫
（例）ICT や発達段階に応じた思考ツールの活用　等

情報収集
・各教科の見方・考え方を働かせた情報収集、情報の蓄積を図る工夫
（例）実験・観察、追体験　等

課題設定
・目標に基づいた課題設定
・学習対象への興味・関心に基づいた課題設定
・リフレクションに基づいた課題設定
（例）前時との比較、体験活動、理想と現実のずれ　等

順番が前後したり、1 つの活動の中に、複数のプロセスが一体化して同時に行われたり、何度も繰り返したりすることがある。

何ができるようになったか　学びの成長を自覚する　金沢リフレクション

目　的　●何を学ぶかを示した「金沢ベーシックカリキュラム」、どのように学ぶかを示した「金沢探究スタイル」、土台となる金沢独自の小中一貫教育により、児童生徒がデジタル力・読解力・コミュニケーション力について、身に付けることができたかを振り返ることを目的とします。

1　デジタル力・読解力・コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿

デジタル力

「主体的にデジタル社会と関わる姿」
- 日常的に ICT を活用する
- 課題設定、情報収集、整理分析、表現・まとめを行う探究的な活動で ICT を効果的に活用する
- 「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画する　など

読解力

「学び続けるための土台を身に付けた姿」
- 文章、図表、動画等から情報を収集、整理・分析する
- 情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるか読み取る
- 他者の思いを読み取る　など

コミュニケーション力

「他者を尊重し自分の意思を伝える姿」
- ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりする
- 自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりしながら探究的な活動に取り組む
- 相手や目的に応じて、分かりやすくプレゼンする　など

2　児童生徒が学びの成長を自覚するための場の設定・資料の活用

各教科等

●ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
●Ｄタイムで学びを自覚する自己評価

全国学力・学習状況調査等

●児童生徒質問紙
- PC、タブレットなどの ICT 機器の使用頻度
- PC、タブレットを活用することの有用性

●学校評価
- 学校評価計画に重点目標、デジタル力を観点とした評価項目・指標の明記

●市内統一の調査
- 学期毎に１人１台学習用端末を活用した調査

情報活用能力検定

（例）
- 情報活用能力体系表（文科省）に基づく、情報活用能力調査の実施（小 6、中 2）

ロボットコンテスト等

（例）
- 校内ロボットコンテストの実施
- 大学等主催のプログラミング大会に参加（希望者）など

各教科等

●ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
●Ｒタイムで学びを自覚する自己評価

全国学力・学習状況調査等

●国語の「読むこと」「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」のうち、根拠を基に深く考えることに適した問題

●児童生徒質問紙
◇読書活動に関すること
- 授業時間以外の読書時間
- 図書館の利用頻度

●学校評価
- 学校評価計画に重点目標、読解力を観点とした評価項目・指標の明記

●市内統一の調査
- 学期毎に１人１台学習用端末を活用した調査

読解力検定・コンクール等

（例）
- 文章を正確に理解し、利用し、熟考する調査
- NIE の取組、読書感想文、自由研究　など

各教科等

●ノートや１人１台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
●Ｃタイムで学びを自覚する自己評価

全国学力・学習状況調査等

●児童生徒質問紙
◇話し合いに関すること
- 自分の考えを深めたり、広めたりする
- 互いの意見の良さを生かして解決方法を決める

◇地域や伝統、外国に関すること
- 地域や社会をよくするために何かしたい

●学校評価
- 学校評価計画に重点目標、コミュニケーション力を観点とした評価項目・指標の明記

●市内統一の調査
- 学期毎に１人１台学習用端末を活用した調査

フォーラム・ジュニア金沢検定等

（例）
- 金沢ふるさと学習で設定した課題の解決方法について金沢 SDGs 子どもフォーラム等で紹介
- 英語スピーチコンテストの開催（希望者）
- ジュニアかなざわ検定への参加（希望者）など

資料：報告第９号

令和６年度　かなざわ市民アカデミー

スポーツで人とまちを元気に

令和６年 **10月22日（火）**

18:30～20:00（18:00開場）

会場 金沢市文化ホール
金沢市高岡町15-1

定員 760人　**受講料** 1,000円
※応募多数の場合は抽選

演題
成功へのプロセス
～地域を元気にする
スポーツのチカラ～

講師
福田 正博さん
サッカー解説者
元サッカー日本代表

申込期間
令和6年 7月1日（月）～9月20日（金）まで
※金沢市電子申請サービス又は電話・メールにてお申込みください。
（1件につき、2名まで受付可）
詳しくは裏面をご確認ください

かなざわ生涯学習情報サイト

LIVE配信あります

LIVE配信視聴料 1,000円
申込期間
令和6年
7月1日（月）～10月9日（水）
お申込方法は裏面をご確認ください。

お問い合わせ
〒920-0999　金沢市柿木畠1-1
金沢市教育委員会生涯学習課
TEL 076-220-2441
FAX 076-220-2488
shiminac@city.kanazawa.lg.jp
主催　金沢市・金沢市教育委員会

令和6年度 かなざわ市民アカデミー

講師プロフィール／申込方法

講師プロフィール

✦ 福田（ふくだ） 正博（まさひろ）（サッカー解説者・サッカー指導者、元サッカー日本代表）

1966年神奈川県横浜市生まれ。中央大学卒業後、1989年に三菱(現浦和レッズ)に入団。1995年に日本人初のJリーグ得点王に輝き、日本代表としても活躍。Jリーグ開幕前の1989年から引退する2002年まで浦和レッズの象徴的存在として活躍し、サポーターには「ミスター・レッズ」として現在も親しまれている。

2002年現役引退後は、日本サッカー協会のJFAアンバサダーとして全国各地で幅広いサッカー普及活動に尽力する傍ら、浦和レッズコーチ（2008～10年）を務め、現在はサッカー解説者として活躍している。

申込方法

会場参加をご希望の方

金沢市電子申請サービス又は電話・メールにてお申込みください。
（1件につき、2名まで受付可）

かなざわ生涯学習情報サイト

① 金沢市電子申請サービスを利用

かなざわ生涯学習情報サイトの申込みリンクよりお申込みください。 かなざわ市民アカデミー 検索

② 電話・メールを利用

※電話による受付は平日9:00～17:45のみ

☎ 076-220-2441 ✉ shiminac@city.kanazawa.lg.jp

代表者の住所、郵便番号、氏名、電話番号、参加方法、申込人数を問い合わせ先までお知らせください。
また、市外在住の方は、金沢市内への通勤・通学の有無もお知らせください。
なお、抽選結果は郵送又は電子メールでご連絡します。

・お一人様につき１回に限りお申し込みいただけます。複数回の応募は無効となります。
・定員を超えた場合は、市内在住又は在勤・在学の方を優先させていただきます。
・未就学児は膝の上で受講いただくか、お席が必要な場合は、同様にお申込みが必要となります。

申込みから受講までの流れ

申込み ▶ 抽選結果ご連絡 ▶ 受講料入金のご案内 ▶ 期日までご入金 ▶ 入場券郵送 ▶ 受講

LIVE配信をご希望の方

金沢市電子申請サービスにてお申込みください。 視聴方法は別途ご連絡いたします。

かなざわ生涯学習情報サイトの申込みリンクよりお申し込みいただきクレジット決済で受講料をお支払いください。

かなざわ市民アカデミーとは？

金沢が誇る地域文化や新たなジャンルから、テーマを一つ取り上げた、段階的に学べる生涯学習講座です。
学びと「出会い」「深め」「広げる」の３ステップで、生涯にわたる自学へといざないます。

STEP 1 本講演会で学びと出会う
STEP 2 映像講座で学びを深める
STEP 3 図書館・各種催事・現地で学びを広げる

あわせてチェック

- 映像講座の公開は11月頃を予定しています。 申込不要・無料
- テーマに関連した本市の事業やイベントなど関連情報を発信し、自学をサポートします。

詳しくはこちらから